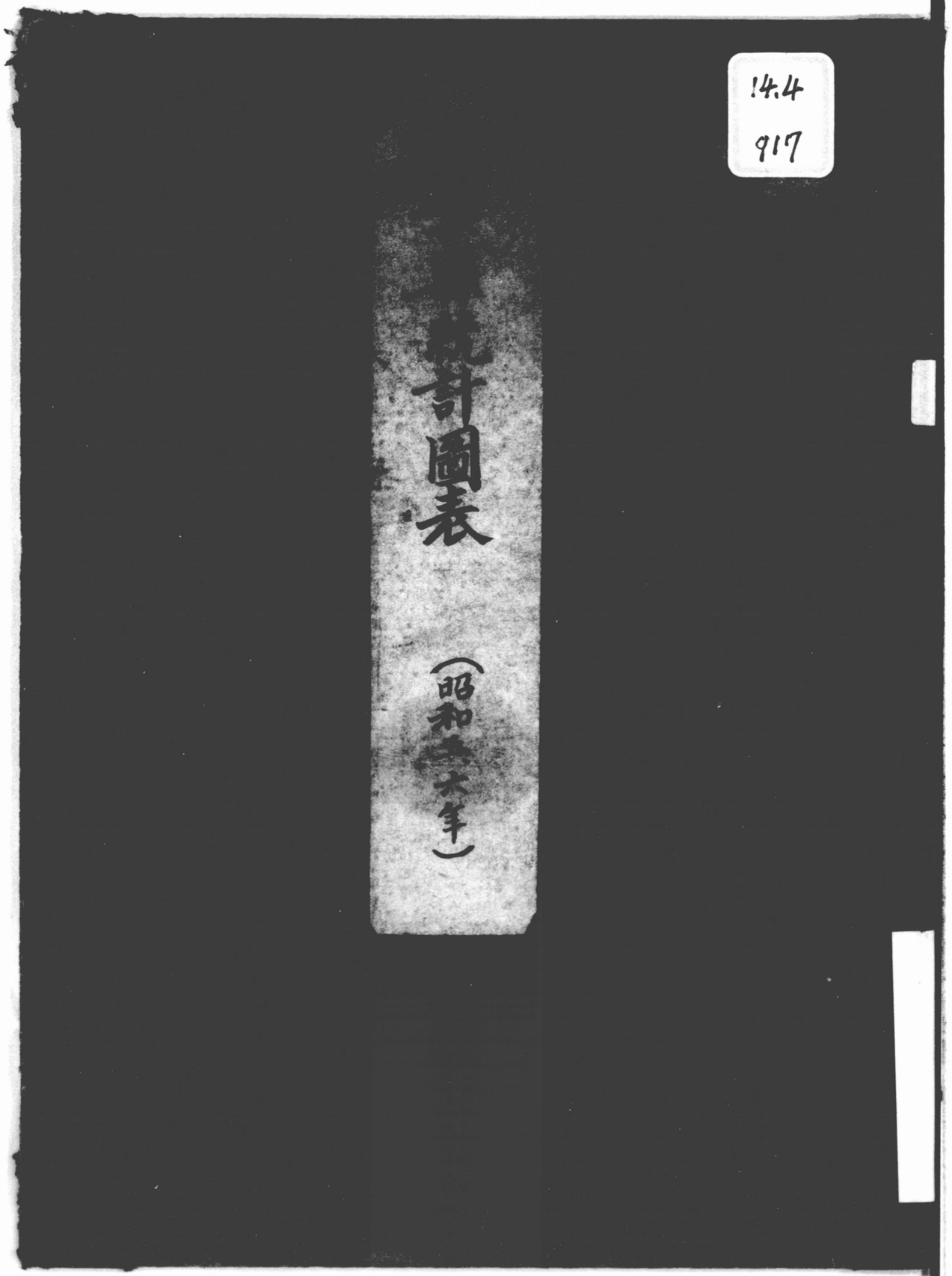
14.4
917



0032233000

0032233-000

１４．４－９１７

千葉県統計図表

千葉県知事官房統計課・編

千葉県

昭和７

AFB

千葉縣統計圖表

千葉縣知事官房統計課

昭和七年三月刊行

緒言

近時政治、經濟、其の他各般の施設計畫の基礎を、統計に置かざるなく、又學術上に於ても之に據りて其の研究の歩を進め、一や統計は更に國民の日常生活とも密接に離る可らざるものあるに至れり、然るに統計は其の性質上、煩瑣ある數字を以て表章せらるゝため、動もすれば之を等閑に附するの傾向ありて、其の利用の未だ普及せらるゝは寔に遺憾とする所なり。

本書は、此の煩瑣ある數字を早解平明なる描書圖を以て、本縣の土地、人口、産業、教育、衞生、財政等の重要なる現象を表示して、其の變遷推移の跡を觀察するの便に供すると共に、諸般施設上の參考に資せんが爲上梓したるものなり。

昭和七年三月

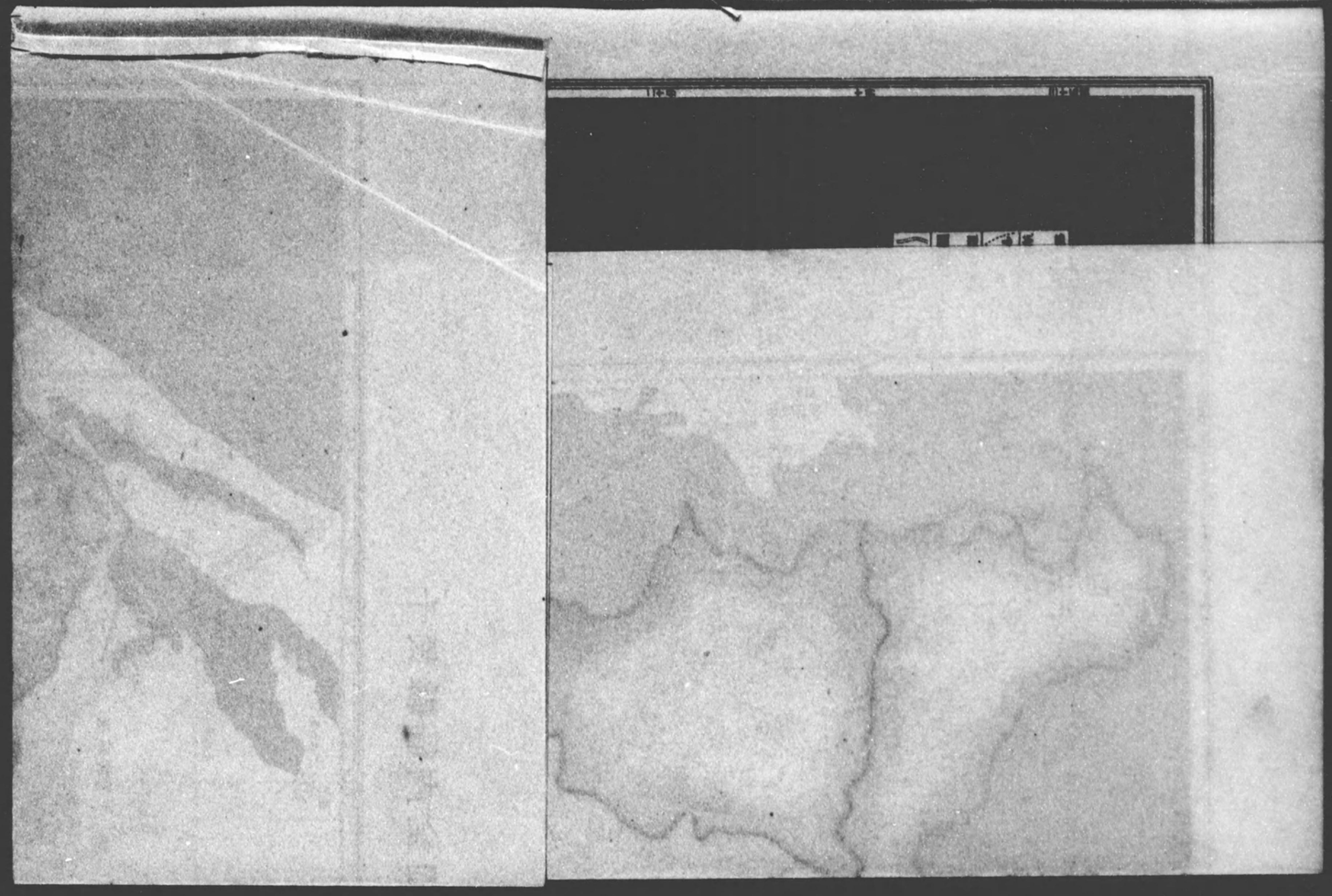
千葉縣知事官房統計課

144-917

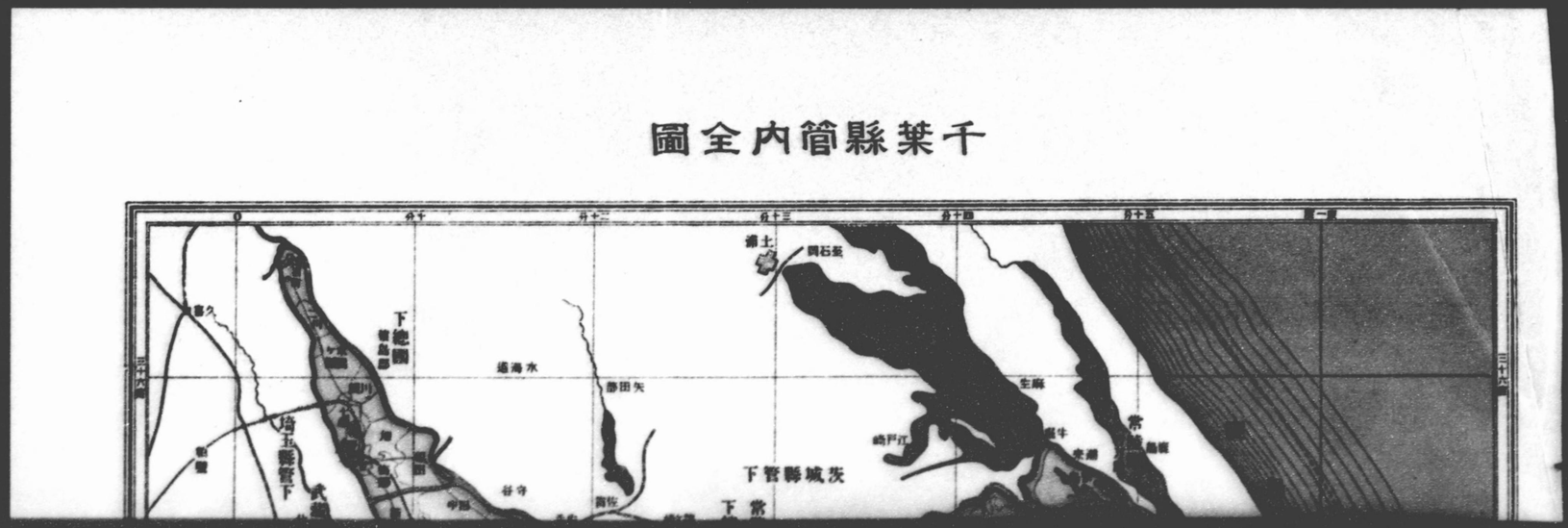
目次

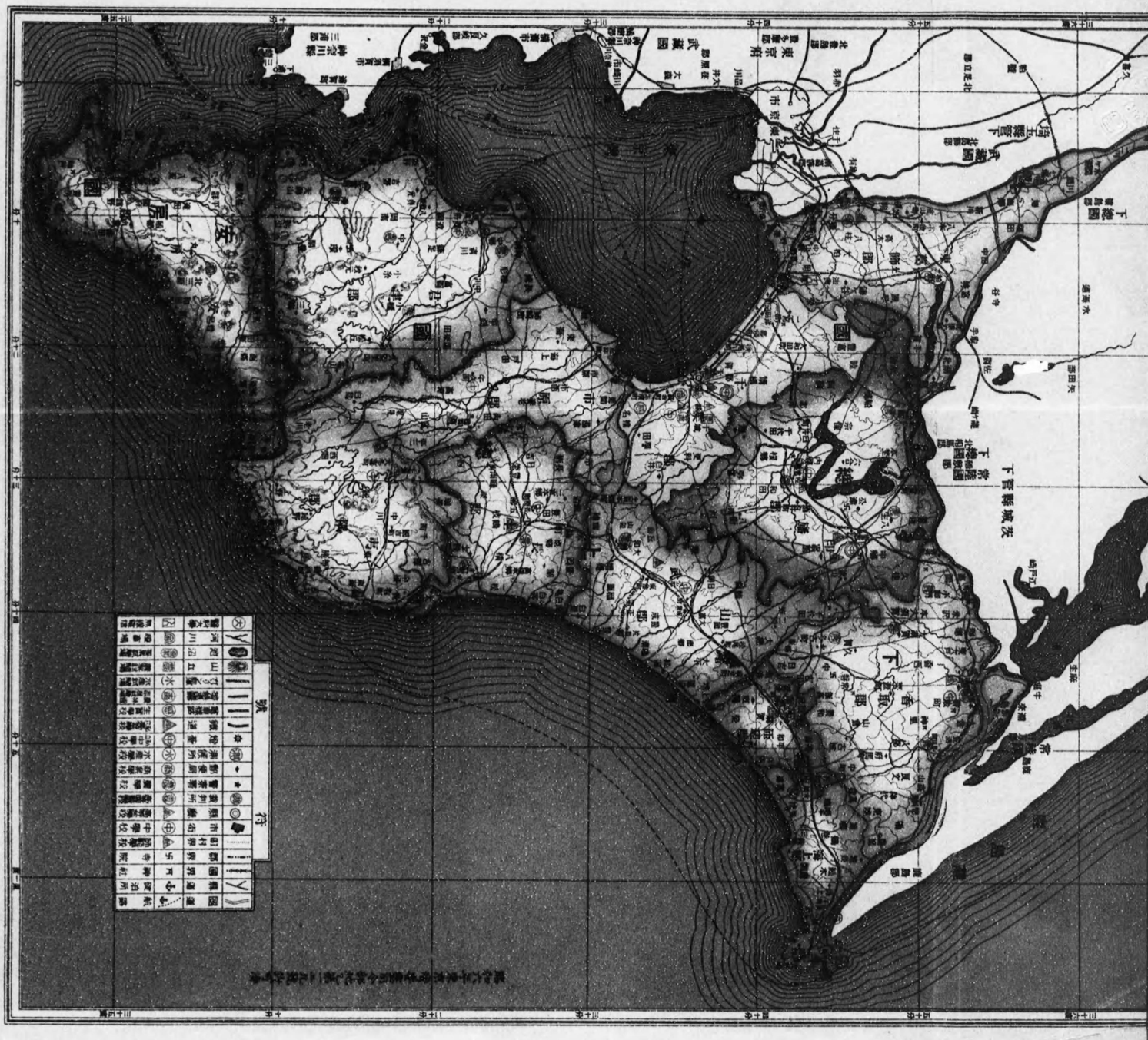
地圖
一、管內地圖
二、管內產業地圖

圖表
一、土地
二、人口
三、人口動態
四、生產總額
五、耕地
六、農業
七、農產物（米、麥）
八、蠶業
九、牧畜及林業
一〇、水產業
一一、工業（工場）
一二、工產
一三、貯金及合社資本金
一四、教育（一）
一五、教育（二）
一六、教育及兵事
一七、警察衛生
一八、衛生
一九、財政
二〇、財政（租稅）



千葉縣管内全圖



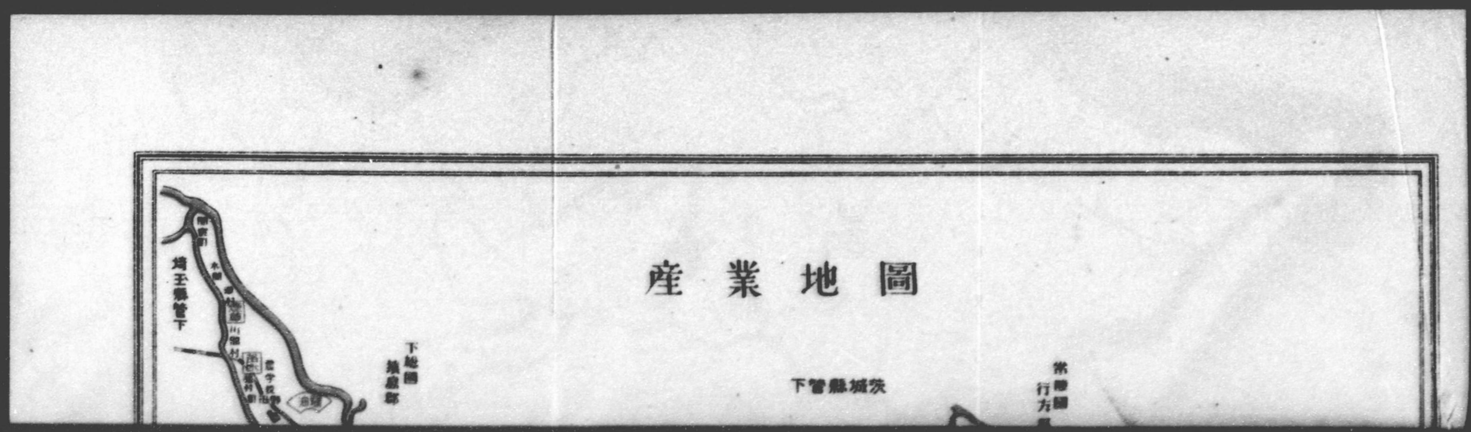


主要物産

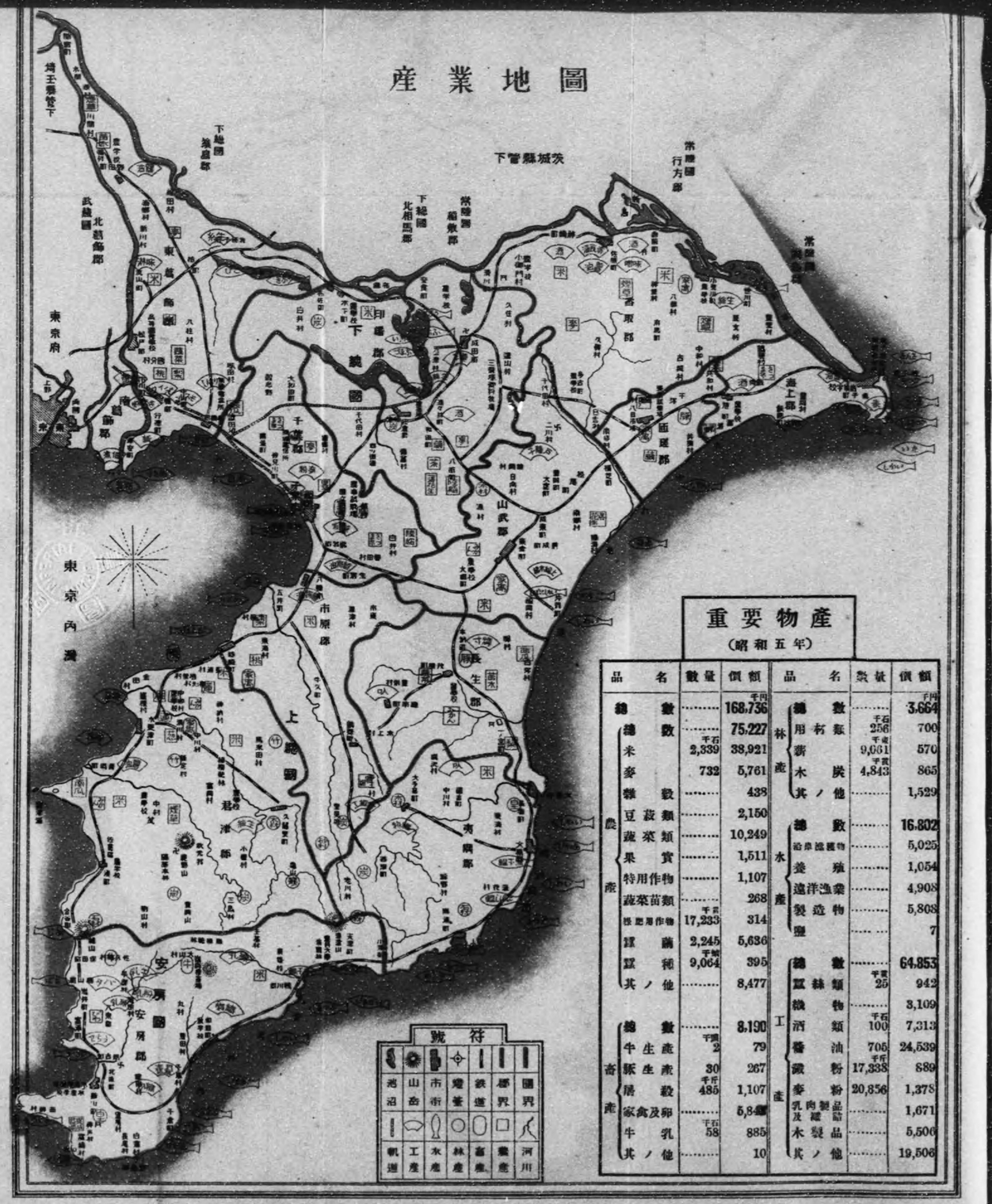
（昭和五年）

価額	品名		数量	価額
千円				千円
168,736	林産	総額	……	3,664
75,227		用材	千石 256	700
38,921		薪	千束 9,061	570
5,761		木炭	千貫 4,843	865
438		其ノ他	……	1,529
2,150	水産	総数	……	16,802
10,249		沿岸漁業	……	5,025
1,511		養殖	……	1,054
1,107		遠洋漁業	……	4,908
268		製造物	……	5,808
314		塩	……	7
5,636	工産	総額	……	64,853
395		繭	千貫 25	942
8,477		絲類	……	3,109
		織物	千石	7,313
8,130		酒類	100	
79		醤油	705	24,539
267		澱粉	千斤 17,338	889
1,107		麥粉	20,856	1,378
5,8[illegible]		肉製品及罐詰	……	1,671
885		木製品	……	5,506
10		其ノ他	……	19,506

産業地圖



産業地圖



重要物産

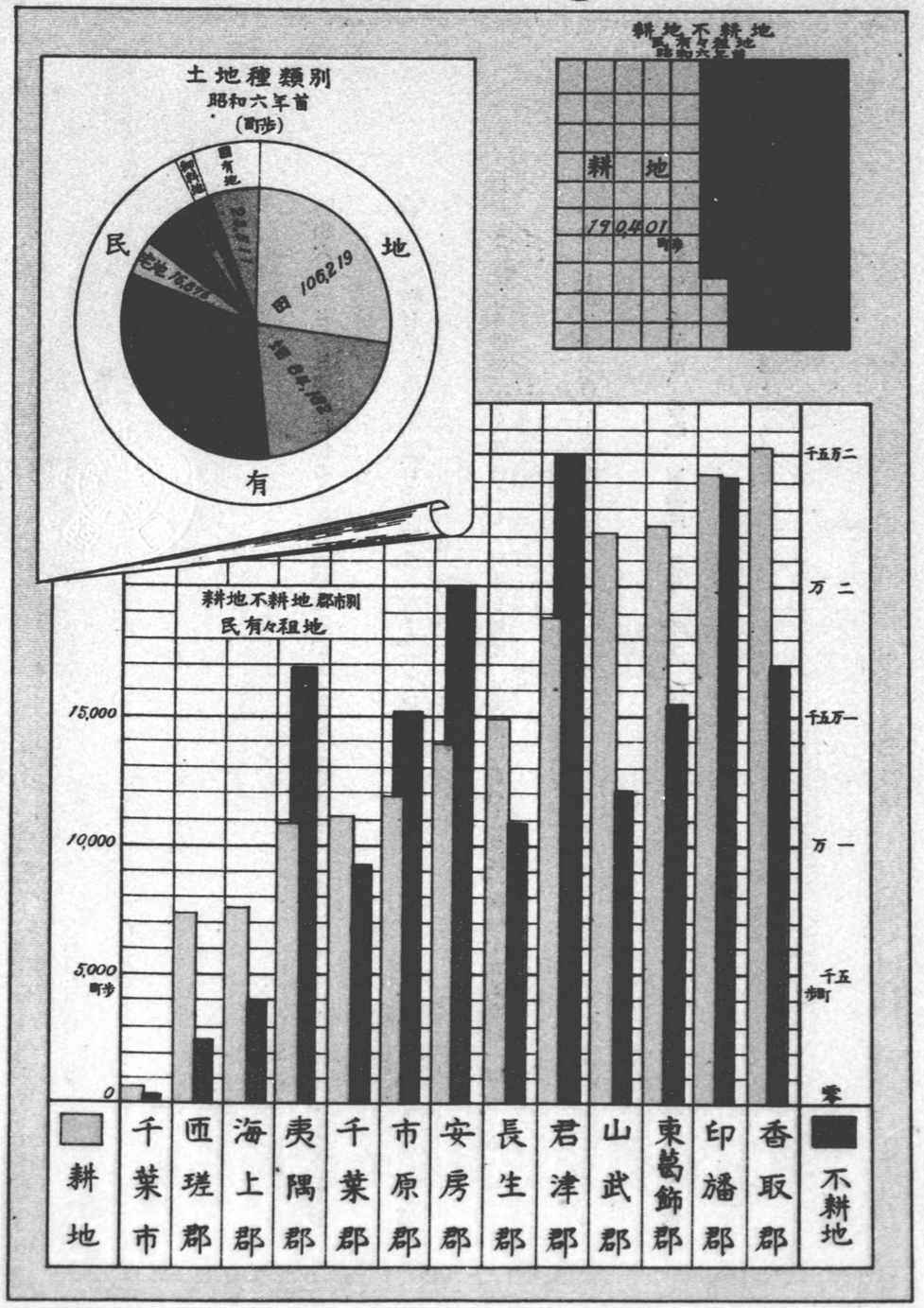
(昭和五年)

品名		數量	價額
總數		……	168,736 千円
農産	總數	……	75,227
	米	2,339 千石	38,921
	麥	732	5,761
	雜穀	……	438
	豆菽類	……	2,150
	蔬菜類	……	10,249
	果實	……	1,511
	特用作物	……	1,107
	蔬菜苗類	……	268
	採肥用作物	17,233 千貫	314
	蠶繭	2,245	5,636
	蠶種	9,064 千蛾	395
	其ノ他	……	8,477
畜産	總數	……	8,190
	牛生産	2 千頭	79
	豚生産	30	267
	屠殺	485 千斤	1,107
	家禽及卵	……	5,84[illegible]
	牛乳	58 千石	885
	其ノ他	……	10

品名		數量	價額
林産	總數	……	3,664 千円
	用材類	256 千石	700
	薪	9,061 千束	570
	木炭	4,843 千貫	865
	其ノ他	……	1,529
水産	總數	……	16,802
	沿岸漁獲物	……	5,025
	養殖	……	1,054
	遠洋漁業	……	4,908
	製造物	……	5,808
	鹽	……	7
工産	總數	……	64,853
	蠶絲類	25 千貫	942
	織物	……	3,109
	酒類	100 千石	7,313
	醬油	705	24,539
	澱粉	17,338 千斤	889
	麥粉	20,856	1,378
	乳肉製品及罐詰	……	1,671
	木製品	……	5,506
	其ノ他	……	19,506

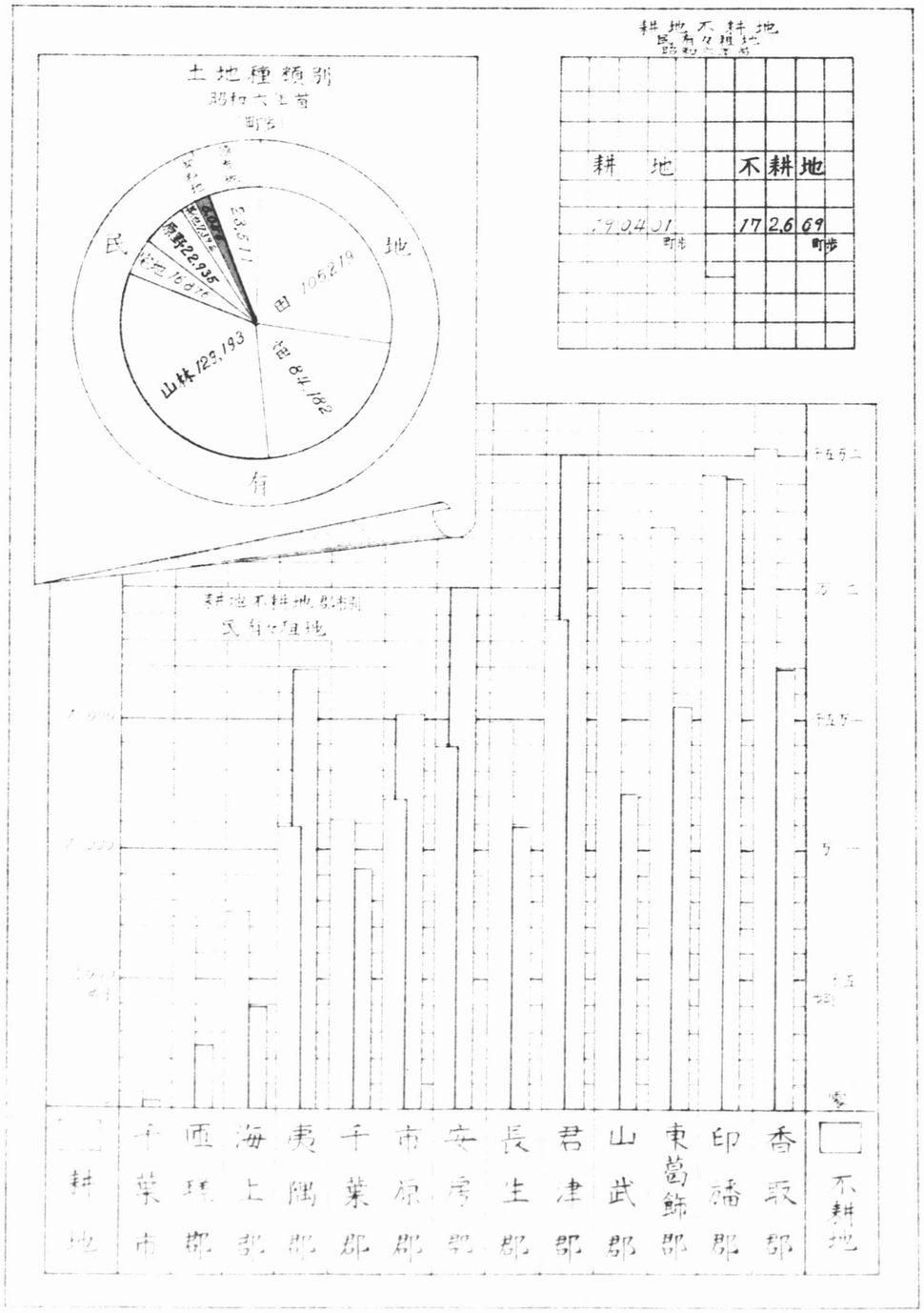
表

土地



土地種類別
昭和六年首
(町歩)
民
地
有
田 106,219
耕地不耕地
地租々有民
耕地
190,401
町歩
耕地不耕地郡市別
地租々有民
15,000
10,000
5,000
町歩
0
千五万二
万二
千五万一
万一
千五
町歩
零
耕地
千葉市
匝瑳郡
海上郡
夷隅郡
千葉郡
市原郡
安房郡
長生郡
君津郡
山武郡
東葛飾郡
印旛郡
香取郡
不耕地

土　地



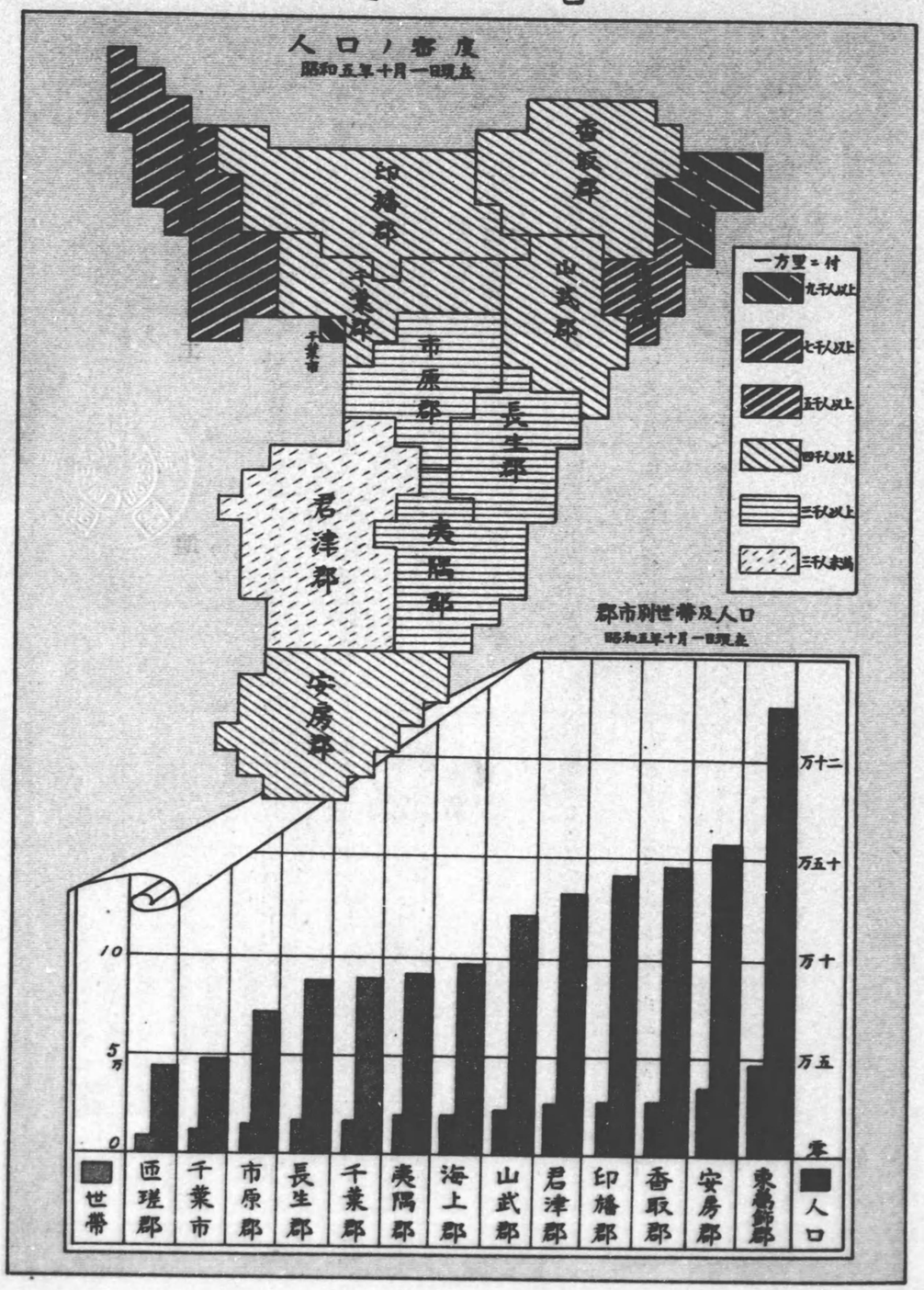
耕地不耕地
民有々租地
昭和六年首

耕地	不耕地
190,401 町歩	172,669 町歩

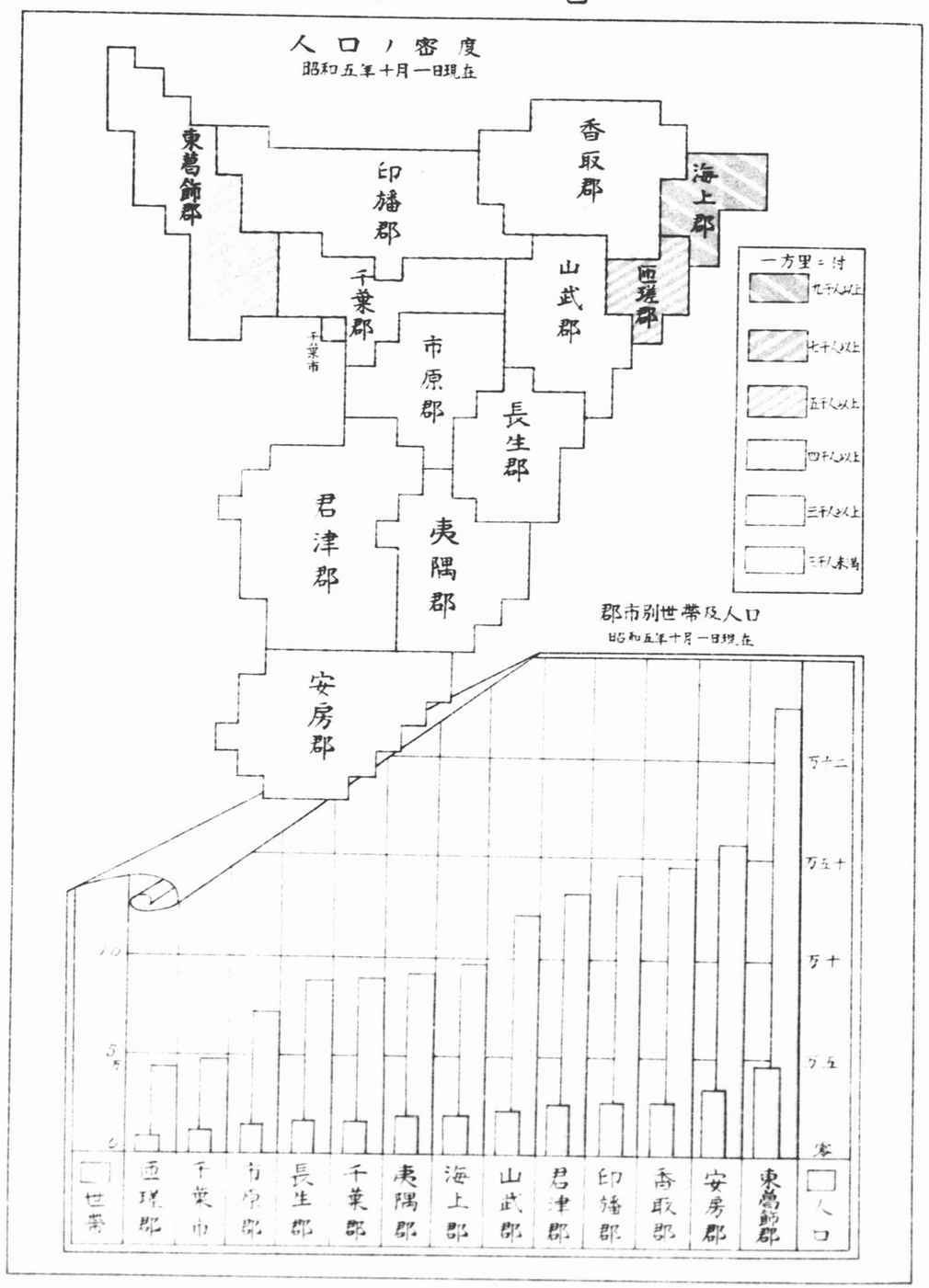
土地

昭和六年一月一日現在に依る土地總面積は三十九萬六千三百六十六町歩にして、內御料地六千五十六町歩（一・五%）、國有地二萬三千五百十一町歩（五・九%）、民有地三十六萬六千七百九十九町歩（九二・六%）を算し、更に民有々租地三十六萬三千七十町歩を耕地、不耕地に別つときは、耕地十九萬四百一町歩（五一%）、不耕地十七萬二千六百六十九町歩（四九%）にして、耕地の割合多きは匝瑳郡の七六%を第一位とし、以下海上、山武、千葉市、香取、東葛飾、長生、千葉、印旛の順序にして爾餘の各郡は不耕地割合多く、就中夷隅郡の六一%を最多とせり。

口人



人口



土地

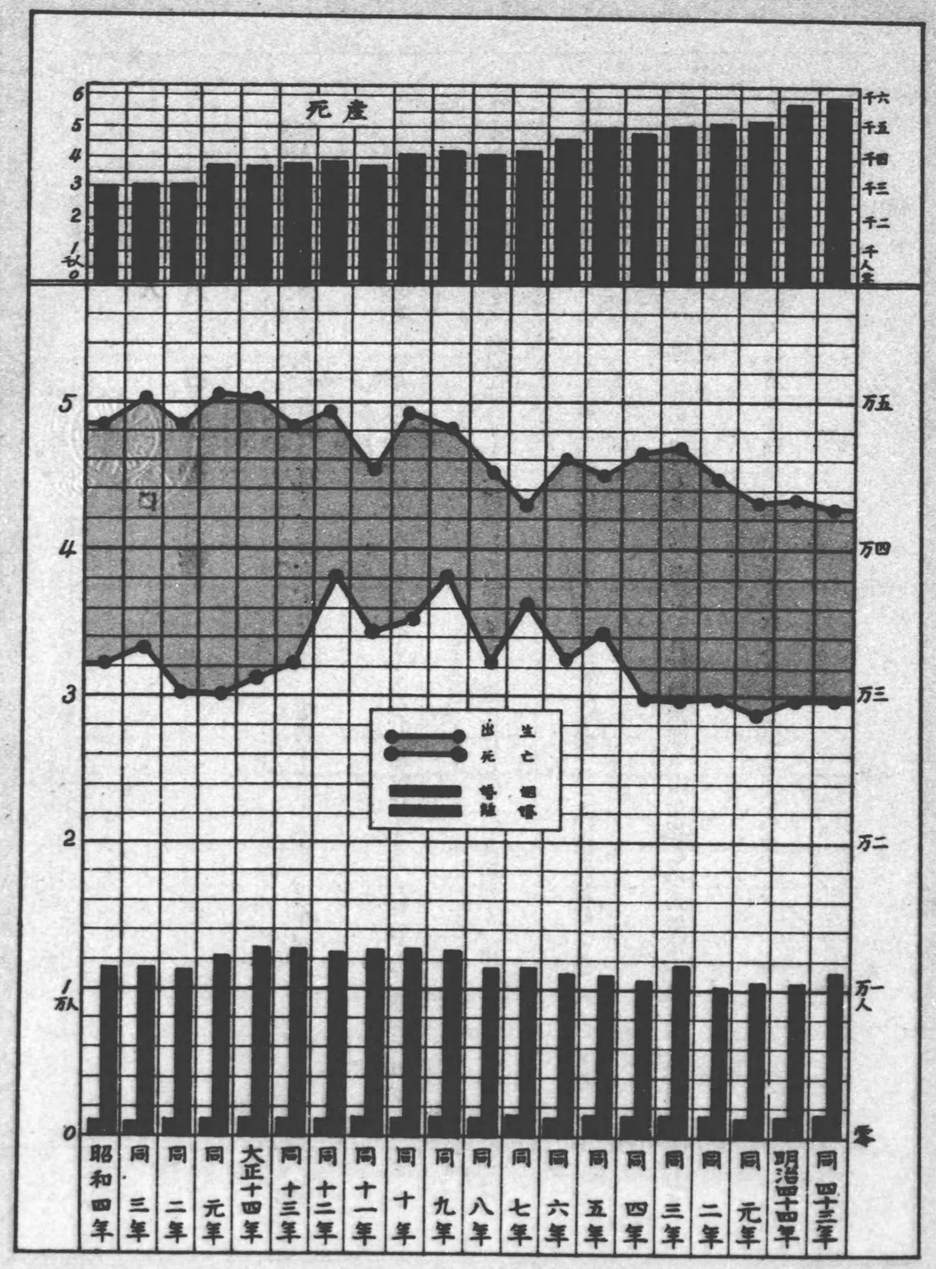
昭和六年一月一日現在に依る土地總面積は三十九萬六千三百六十六町歩にして、内御料地六千五十六町歩（一・五%）、國有地二萬三千五百十一町歩（五・九%）、民有地三十六萬六千七百九十九町歩（九二・六%）を算し、更に民有々租地三十六萬三千七十町歩を耕地、不耕地に別つときは、耕地十九萬四百一町歩（五一・〇%）、不耕地十七萬二千六百六十九町歩（四九%）にして、耕地の割合多きは匝瑳郡の七六%を第一位とし、以下海上、山武、千葉市、香取、東葛飾、長生、千葉、印旛の順序にして爾餘の各郡は不耕地割合多く、就中夷隅郡の六一%を最多とせり。

人口

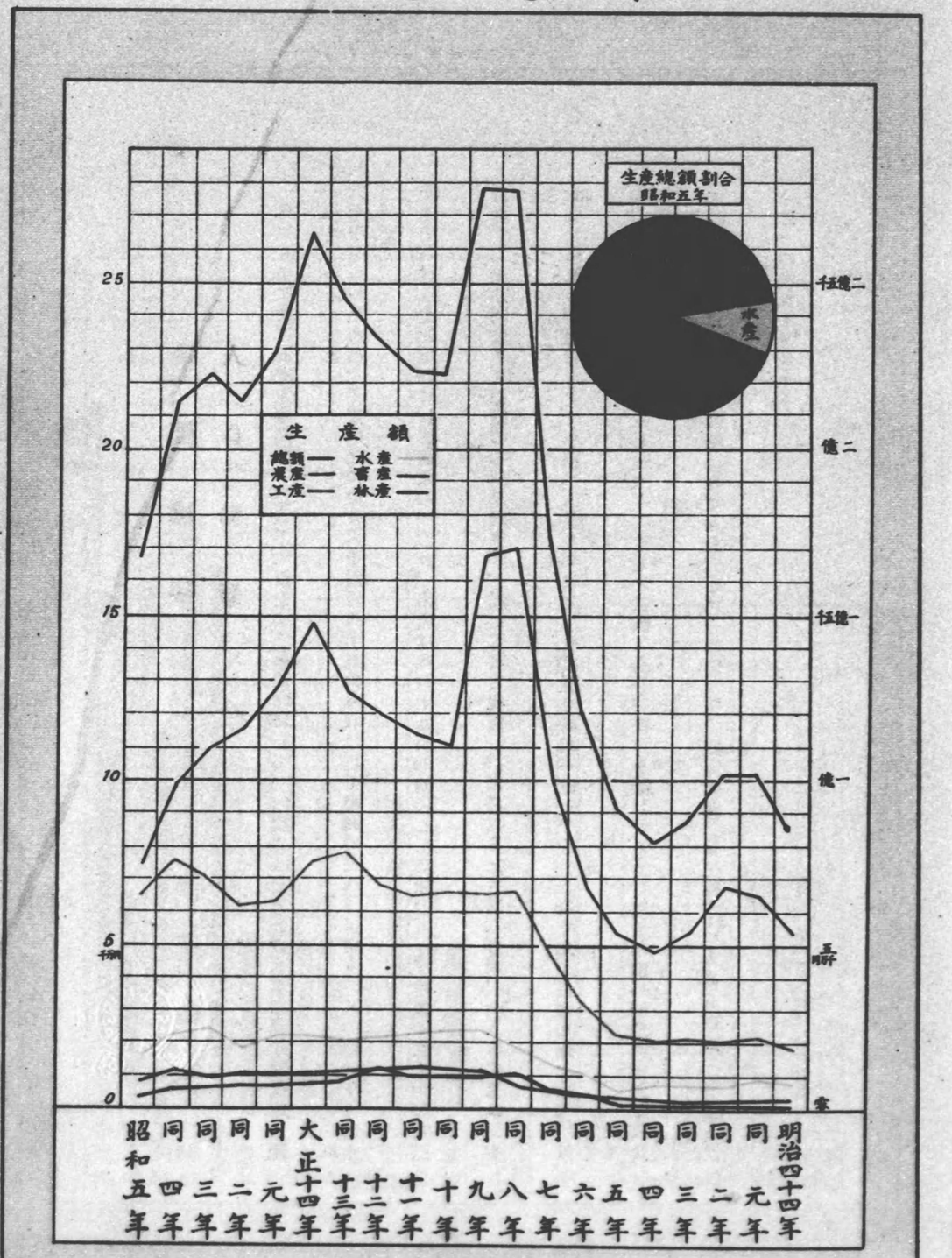
昭和五年十月一日現在に於ける總人口は全國道府縣中第十六位に在りて百四十七萬百二十一人を算し、其の分布を見るに都市中人口の最も大なるは東葛飾郡の二十三萬六千百八十一とし、之に亞ぐは安房郡の十六萬二千九百三十七にして、以下香取、印旛、君津、山武各郡は十萬以上を算し、其の他の郡市は何れも十萬未滿にして、匝瑳の四萬四千九百八十六を最少とす。

人口の密度は一方里に付四千四百六十五人に當り、其の最も稠密なるは千葉市にして五萬九千八百六十一人に相當し、海上郡の九千八百四十二人之に亞き、以下東葛、匝瑳の五千以上、千葉、山武、安房、印旛、香取の四千以上の順序にして、君津郡の二千七百十六人を最少とせり。

人口動態



生産總額



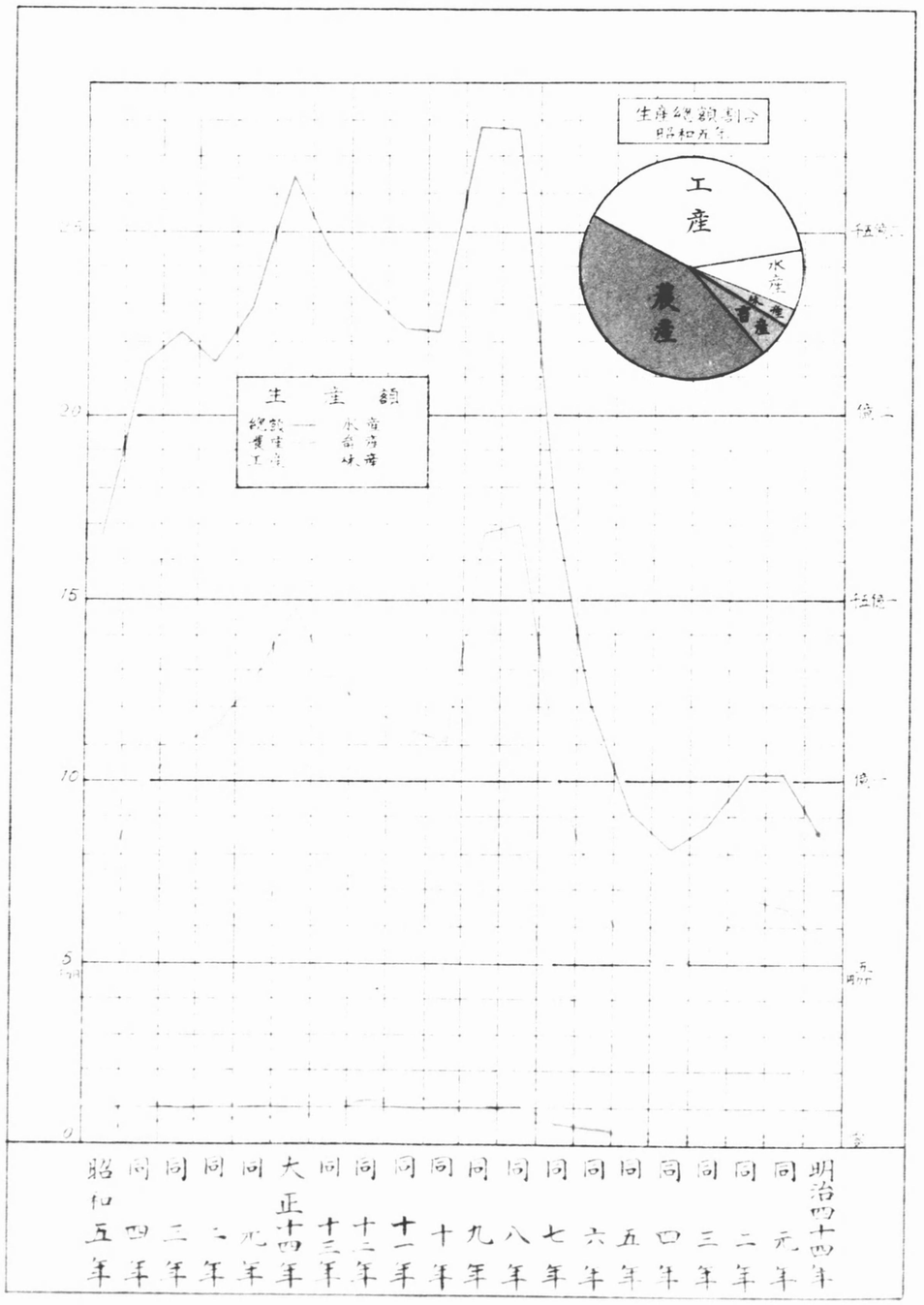
人口動態

本縣に於ける昭和四年中の婚姻一萬千五百六十九（組）・離婚千五十（組）・出生四萬八千九十七・死亡三萬二千二百九十二、死産三千五十三にして、人口千に對する割合、婚姻は七・九六組にして全國平均の七・九〇組に比し〇・〇六組多く、離婚は〇・七二組にして同〇・八一組に比し〇・〇九組低く、出産は三三・一一人にして同三三・〇人に比し〇・一一人多く、死亡は二二・二三人にして同二〇・〇四に比し二・一九人、死産は二・一〇人にして同一・八六人に比し〇・二四人多し、而して自然増加即ち出生死亡の差増は一萬五千八百五人にして人口千に付一〇・八八人に當り全國平均の一二・九六人に比し二・〇八人少じ。

人口動態

本縣に於ける昭和四年中の婚姻一萬千五百六十九（組）、離婚千五十（組）、出生四萬八千九十七、死亡三萬二千二百九十二、死産三千五十三にして、人口千に對する割合、婚姻は七・九六組にして全國平均の七・九組に比し〇・〇六組多く、離婚は〇・七二組にして同〇・八一組に比し〇・〇九組低く、出産は三三・一一人にして同三三・〇人に比し〇・一一人多く、死亡は二二・二三人にして同二〇・四に比し二・一九人、死産は二・一人にして同一・八六人に比し〇・二四人多し、而して自然增加即ち出生死亡の差增は一萬五千八百五人にして人口千に付一〇・八八人に當り全國平均の一二・九六人に比し二・〇八人少し。

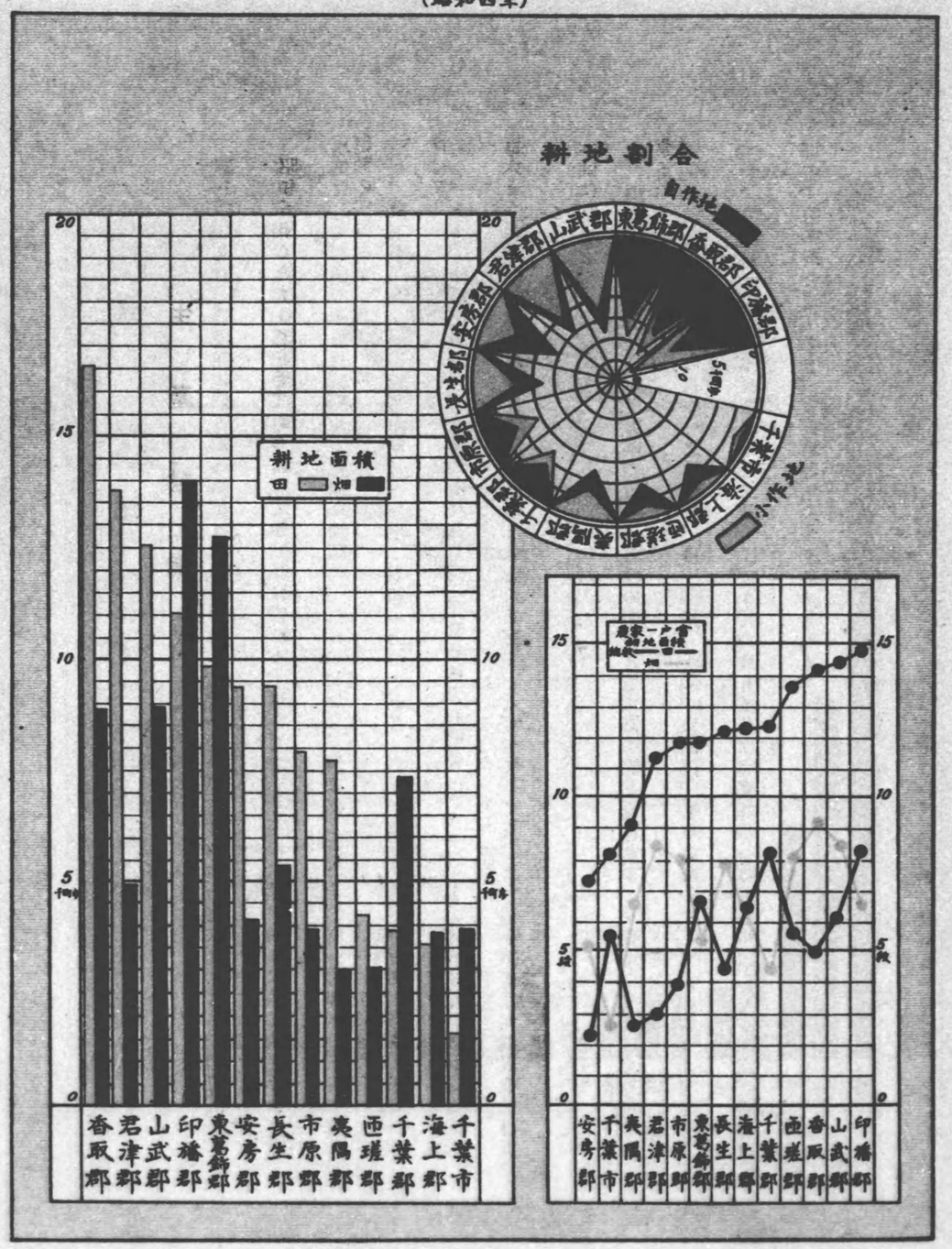
生産總額



明治四十四年
同　元年
同　二年
同　三年
同　四年
同　五年
同　六年
同　七年
同　八年
同　九年
同　十年
同　十一年
同　十二年
同　十三年
大正十四年
同　元年
同　二年
同　三年
同　四年
昭和五年

生産總額

昭和五年に於ける總生產額は一億六千八百七十三萬餘圓にして、內農產は七千五百二十二萬餘圓に達し總額の四五%を占め、工產は之に亞き六千四百八十五萬餘圓にして總額の三八%に當り、其の他は下りて水產は千六百八十餘萬圓にして總額の一〇%、畜產は八百十九萬餘圓にして總額の五%、林產は最も少なく三百六十六萬餘圓にして總額の二%に過ぎず、而して之を現住一戶に付見るときは六百圓、一人に付ては百十六圓に當れり、更に之を十年前の大正九年に比すれば生產總額一億一千八十二萬餘圓（三割九分七厘）、一戶當五百四十七圓（四割七分七厘）、一人當九十三圓（八分一厘）を減じたるも、二十年前の明治四十四年に比すれば八千三百八十三萬餘圓（九割九分二厘）、一戶當二三〇圓（六割二分二厘）、一人當五四圓（八割七分一厘）の增加なりとす。

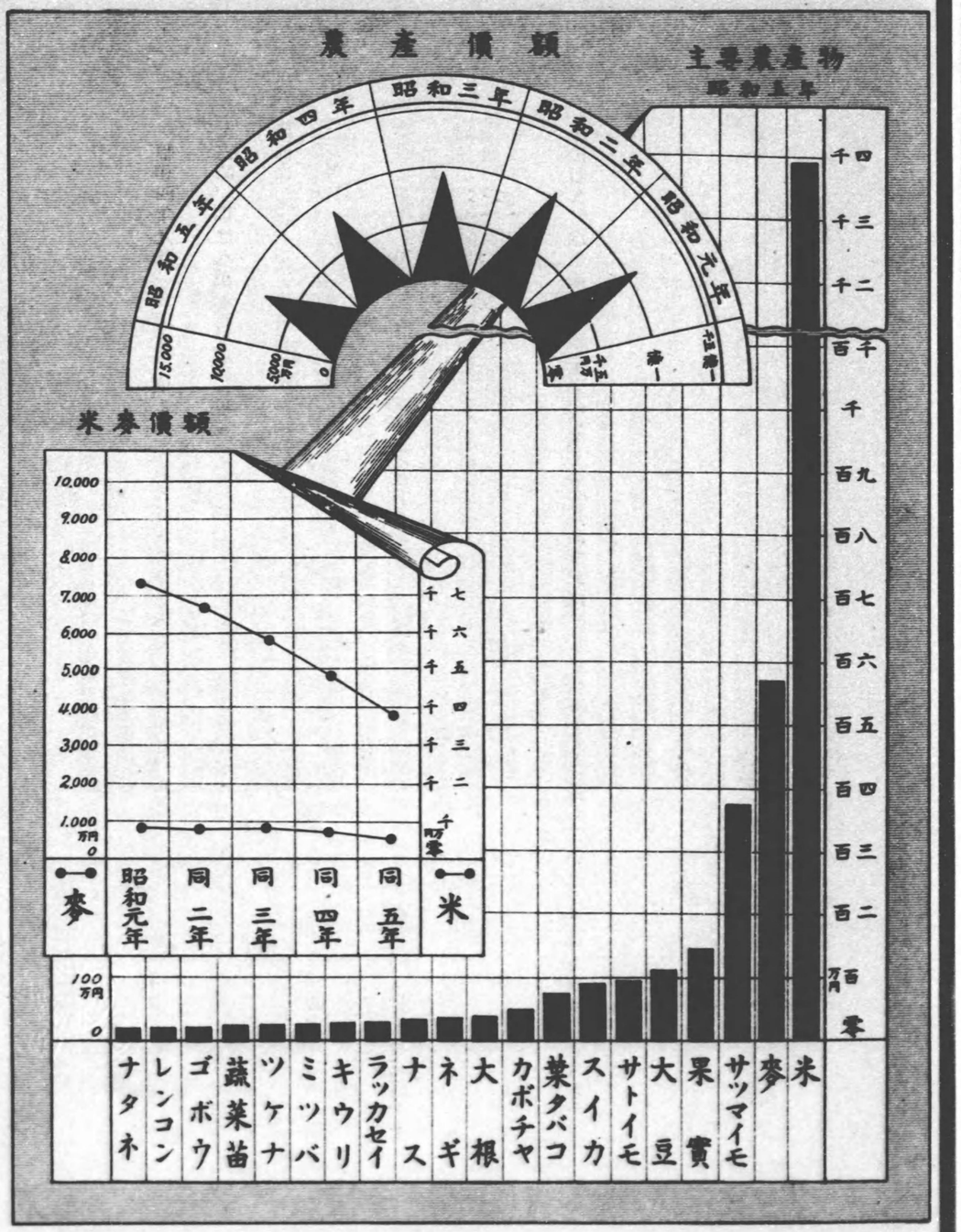


耕地（昭和四年）

耕地

昭和四年九月一日現在に依る耕地面積は十九萬千三百八十一町歩、内田は十一萬六百九町歩にして五八%を占め、畑は八萬七百七十二町歩にして四二%に當れり、而して之か分布の狀態を見るに其の最も多きは香取郡にして二萬五千五百二町歩（總耕地面積の一三%）を算し、印旛郡二萬五千二百一町歩（一三%）之に亞き、以下東葛飾（一二%）、山武（一一%）、君津（九%）、長生（八%）、安房（七%）、市原、千葉、夷隅（各六%）海上、匝瑳（各四%）各郡の順序にして、千葉市の五百町歩（〇・三%）を最少とせり、更に之を自作地と小作地とに區別するときは、自作地は九萬六千百五十六町歩にして五〇・二%、小作地は九萬五千二百五十二町歩にして四九・八%に當れり、而して自作地の最も多きは安房郡にして六九%を占め、匝瑳郡の六七%之に亞き、以下海上、長生、夷隅、山武、君津の順位にして其の數七郡に及ひ、小作地の多きは市原郡六二%を首位とし、千葉市の六一%之に亞き、以下印旛、千葉、東葛飾、香取の順位にして其の數一市五郡に及へり、又農家一戸の耕作面積は一町二段歩に當り其の最も多きは印旛郡の一町五段歩にして、山武、香取兩郡の一町四段歩之に亞き、安房郡の七段歩を最少とせり。

農業

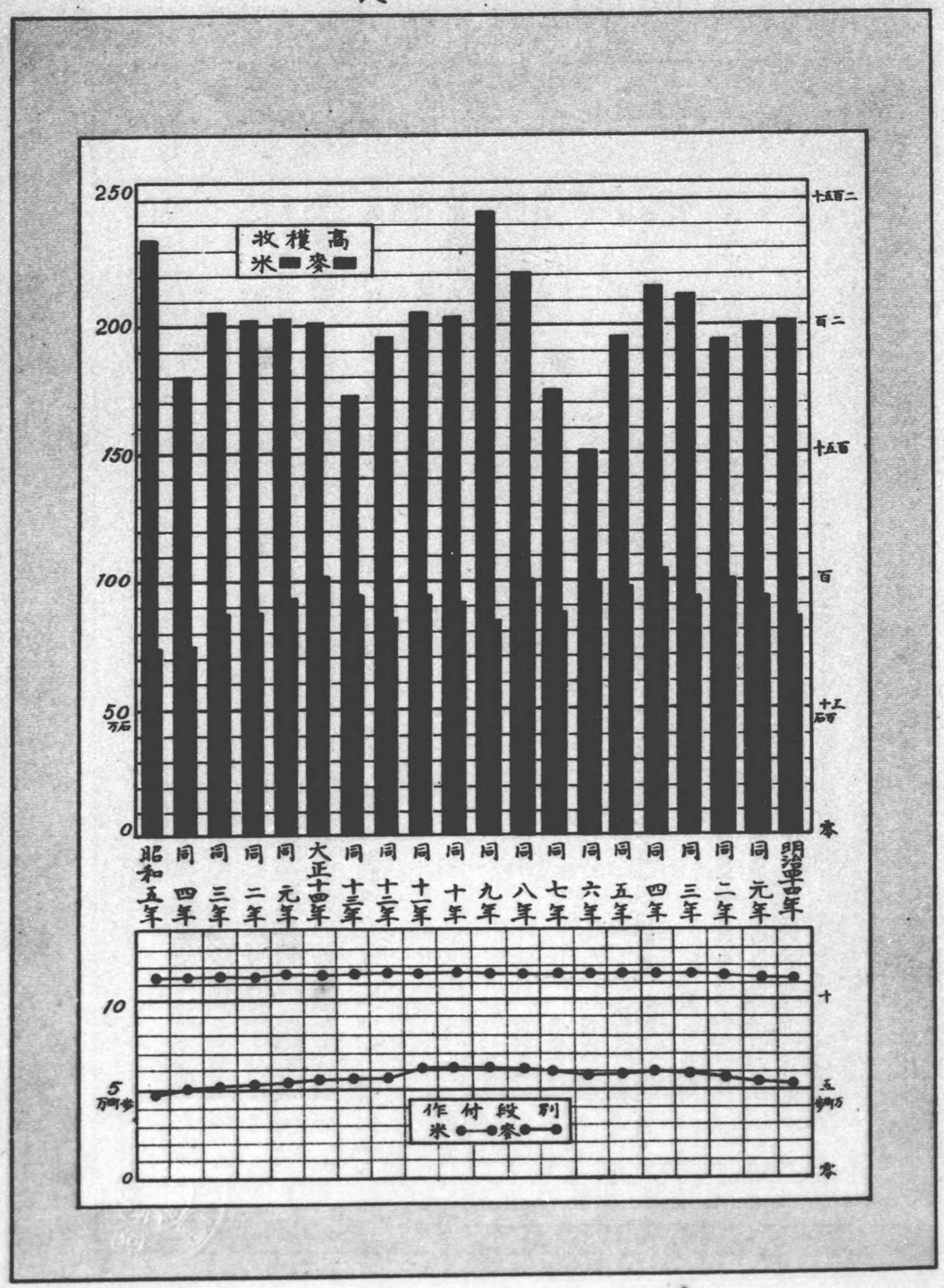


農　業（農産物）

農産物は昭和五年に於ける其の總價額七千五百二十二萬餘圓にして、總生產額一億六千八百七十三萬餘圓の四割五分を占め、內米は三千八百九十二萬餘圓の巨額に達し、麥の五百七十六萬餘圓、甘藷の三百七十餘萬圓、果實の百五十一萬餘圓等其の主要なるものなり。

而して近來農產物價格低落の爲、前年に比すれば二千三百十二萬餘圓（二割三分）、昭和元年に比すれば實に五千二百七十九萬餘圓（四割）の減少なり。

農　産　物



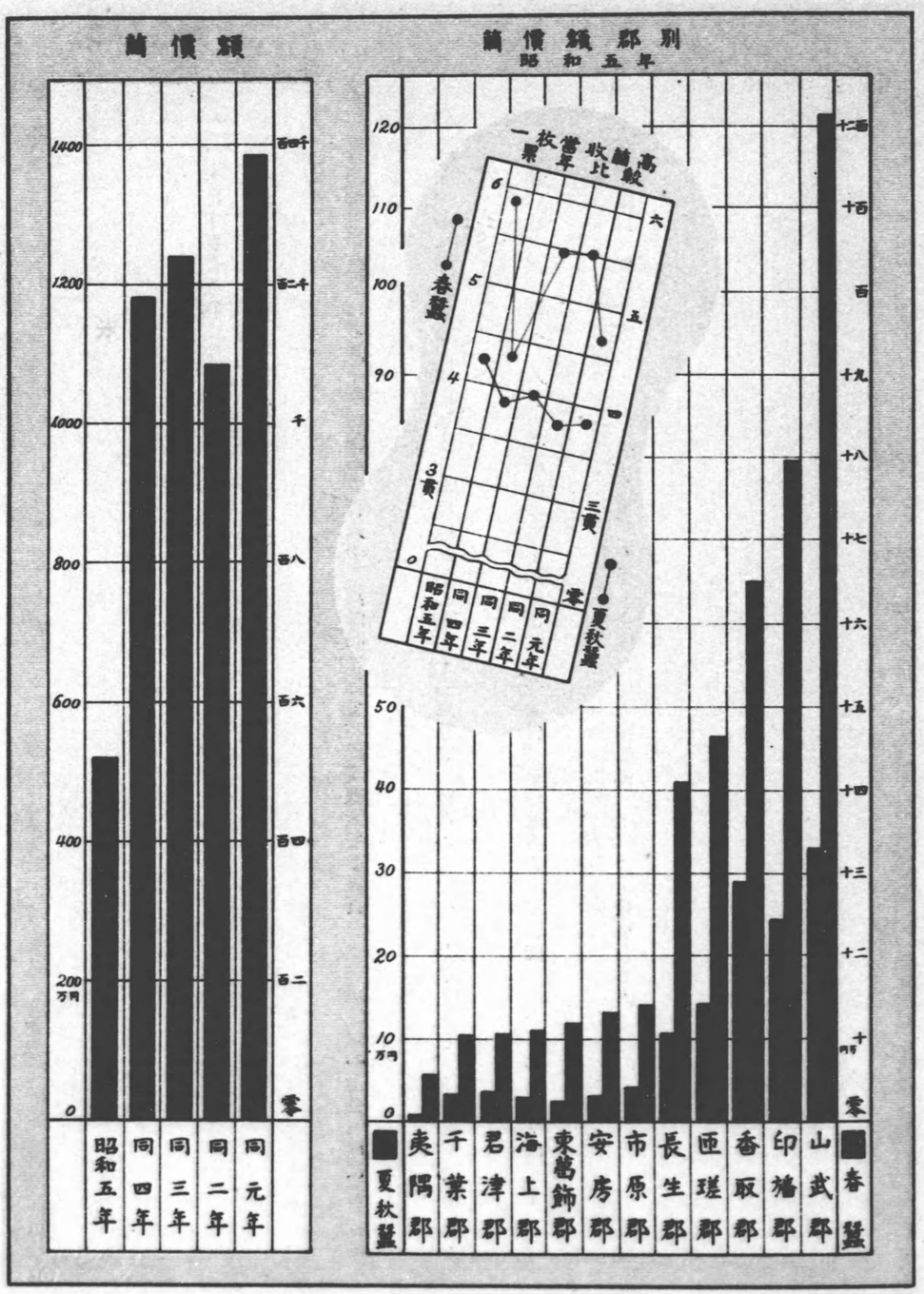
米

米は本縣農産物中第一位を占め昭和五年に於ける其の作付段別は十一萬四千三十町歩、收穫高二百三十三萬八千五百十三石の多きに上り、本邦に於ける千葉縣米の地位は其の作付段別に於て第四位、收穫高に於ては第六位を占め實に全國有數の米産地たり。

麥

麥は米に亞ぐ主要産物にして昭和五年に於ける其の作付段別四萬九千百七十四町歩、收穫高七十二萬九千八百九十八石にして、全國中作付段別並に收穫高共に第九位に在り。

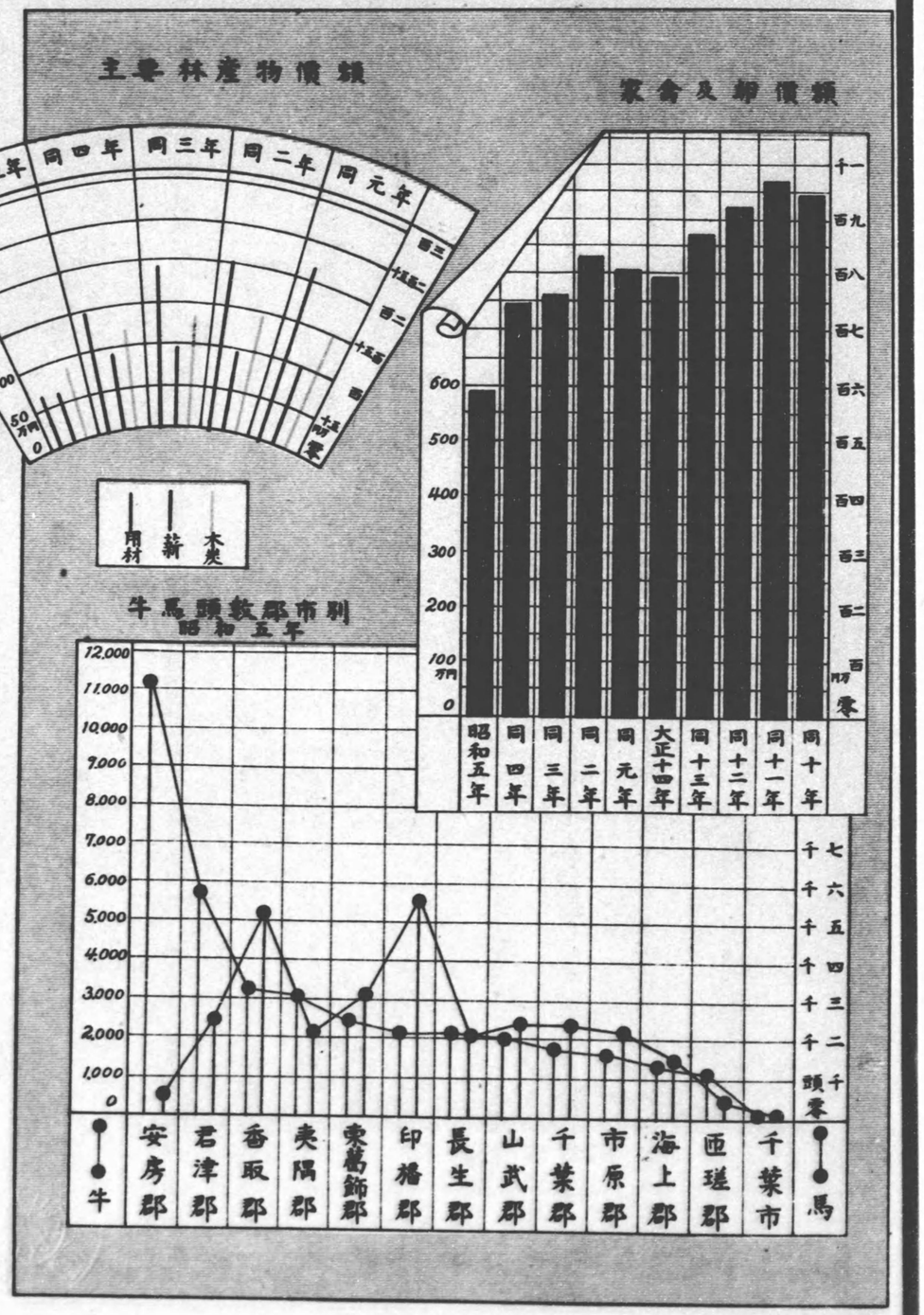
蠶業



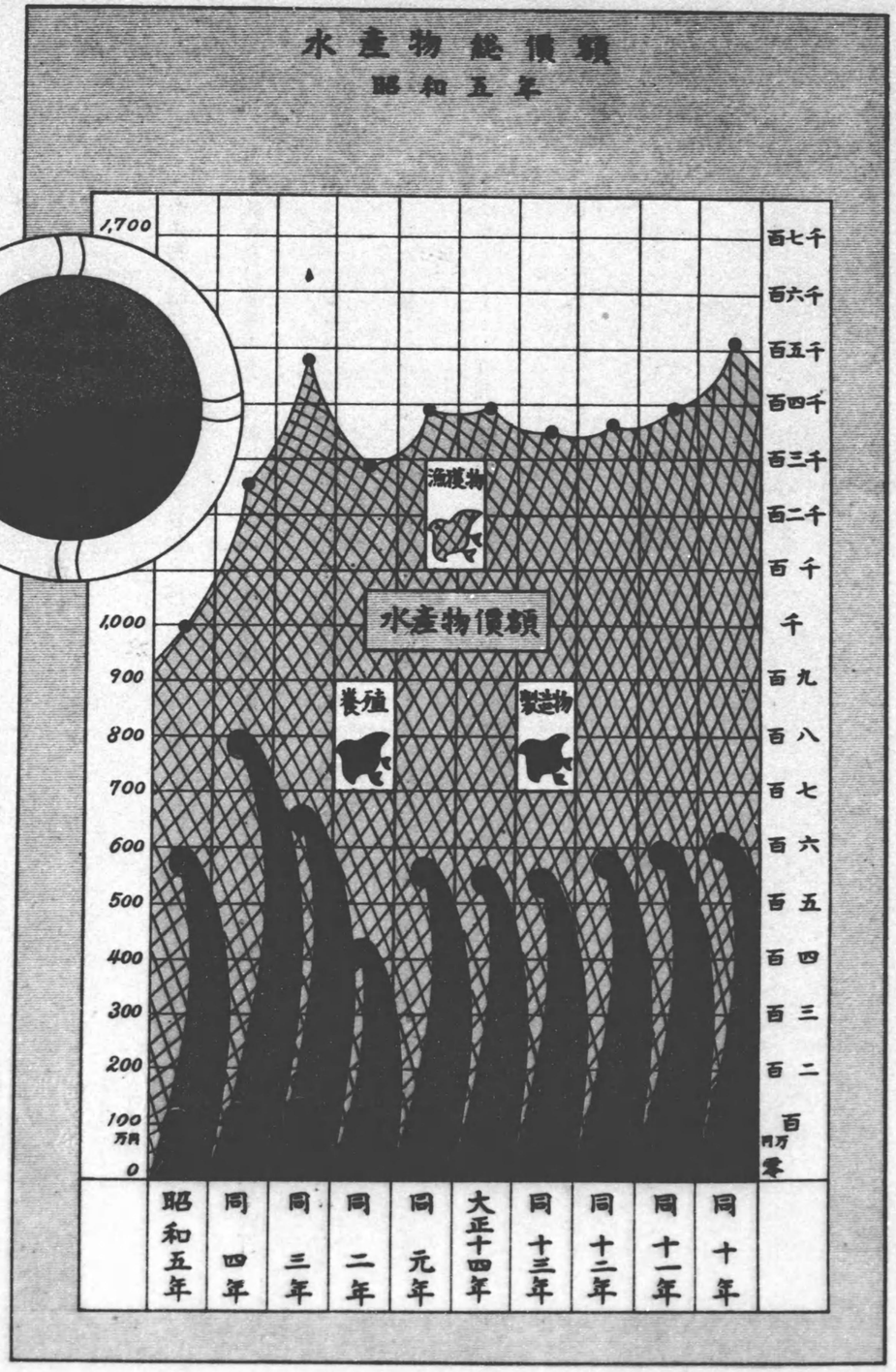
農業

昭和五年に於ける農生産價額は五百六十三萬餘圓にして、農産總額七千五百二十二萬餘圓の七分五厘に當れり、而して之を地方別に見るときは山武郡の百五十三萬餘圓（總額の二七%）を最多とし、之に亞げるは印旛の百三萬餘圓（一八%）、香取郡の九十四餘萬圓（一七%）、匝瑳郡の六十萬餘圓（一一%）、長生郡の五十一萬餘圓（九%）等にして、以下は著しく下り夷隅郡の七萬餘圓（一%）を最少とせり。

牧畜及林業



水産業



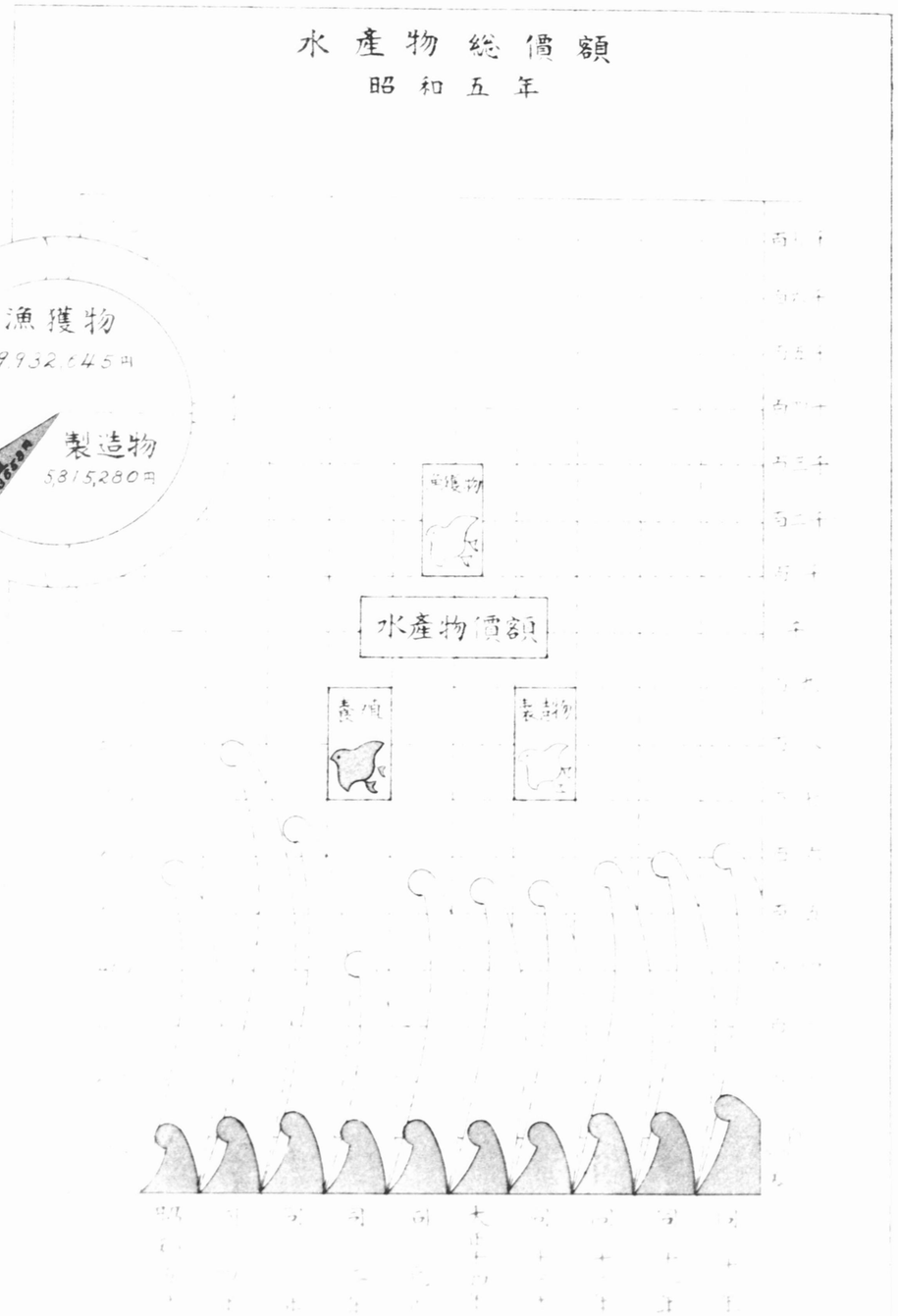
牧畜

畜産物は昭和五年に於ける其の總價額は八百十九萬餘圓にして、總生産價額に對比すれば僅かに五分に過ぎざるも、家禽及卵に在りては五百八十四萬餘圓を算し、畜産物價額の七割一分を占め、本縣重要産業の一にして全國中第二位に在り。

林業

林産物は昭和五年に於ける其の總價額は畜産物より少なく三百六十六萬餘圓にして、總生産價額に對比すれば僅かに二分に過ぎずして、內用材の六十九萬餘圓、薪及木炭の百四十三萬五千圓等其の主なるものなり。

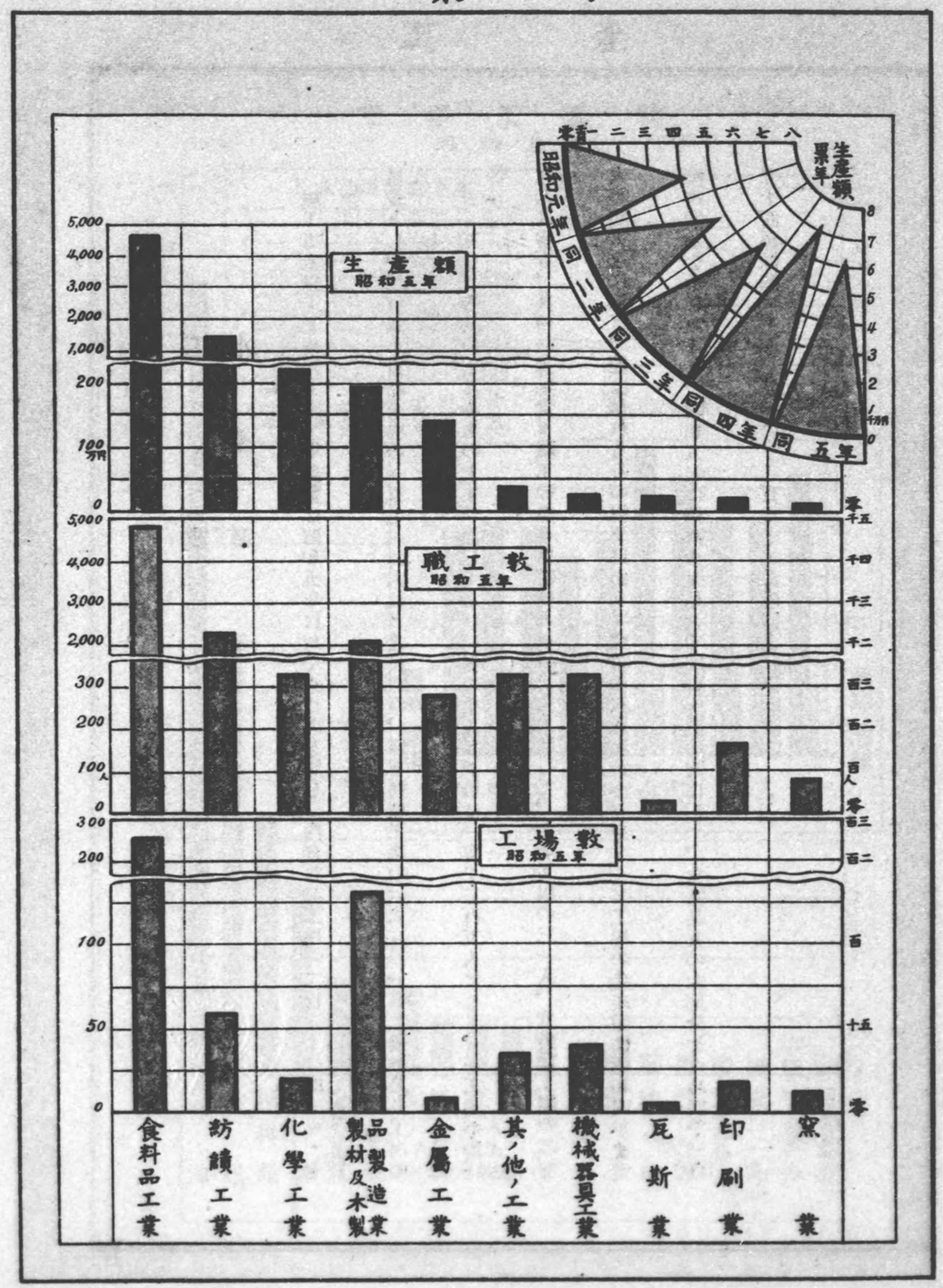
水　産　業


水産物総價額
昭和五年

林　業

牧　畜

工　業（工場）



水　産　業（水産物）

水産物は農産物及工産物に亞ぎその生産額全國道府縣中第五位に在りて、昭和五年に於ける總價額千六百八十萬餘圓に上り、內漁獲物は九百九十三萬餘圓にして、沿岸漁獲物の五百二萬餘圓、遠洋漁業の四百九十餘萬圓之に屬し、水産製造物は五百八十一萬餘圓にして、內食料品の四百五十七萬餘圓を最多とし、水産養殖は著しく下りて百五萬餘圓とす。

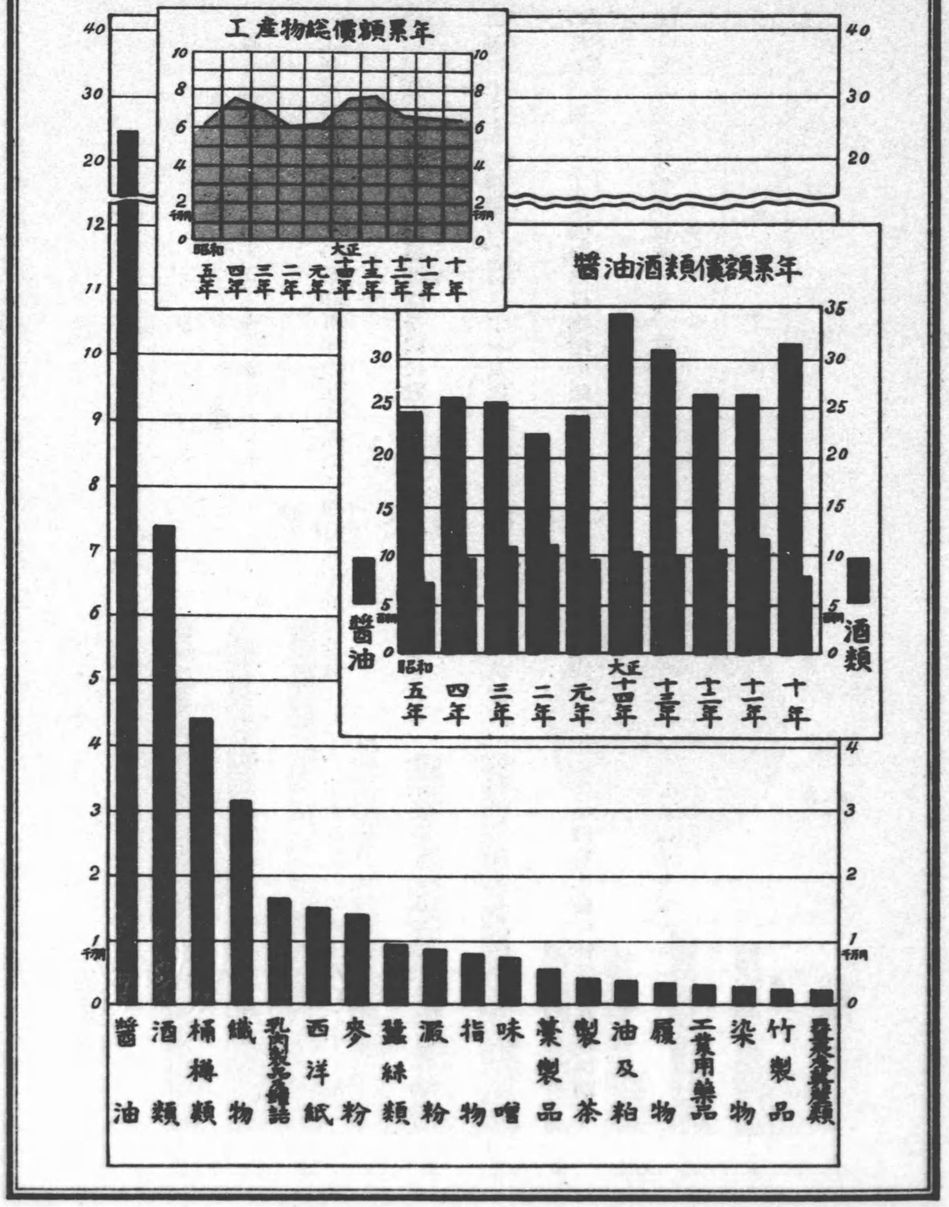
工　業（工　場）

職工五人以上を使用する工場總數は昭和五年に於て六百九を算し、内食料品工場の二百六十（四三%）を最多とし、製材及木製品工場の一五七（二六%）之に亞ぎ、以下紡績工場の六六（一一%）、機械器具工場の三三（五%）等其の主なるものとす。而して之れに從事する職工數は一萬千三百五人にして、一工場平均一九人に當り、其の一工場當り職工の多きは紡績工場の三六人にして、金屬工場の三一人、食料品工場の二〇人等順次之に亞ぎ、他は何れもその以下にありて窯業の八人を最少とせり。又工場の生産額は昭和四年までは漸次增加を示したるも、昭和五年は稍減少を見六千四百八萬餘圓にして、食料品其の大部分を占め四千三百五十四萬餘圓に上り、紡績の千三百八十二萬餘圓之に亞げり。

工　産

主要工産物

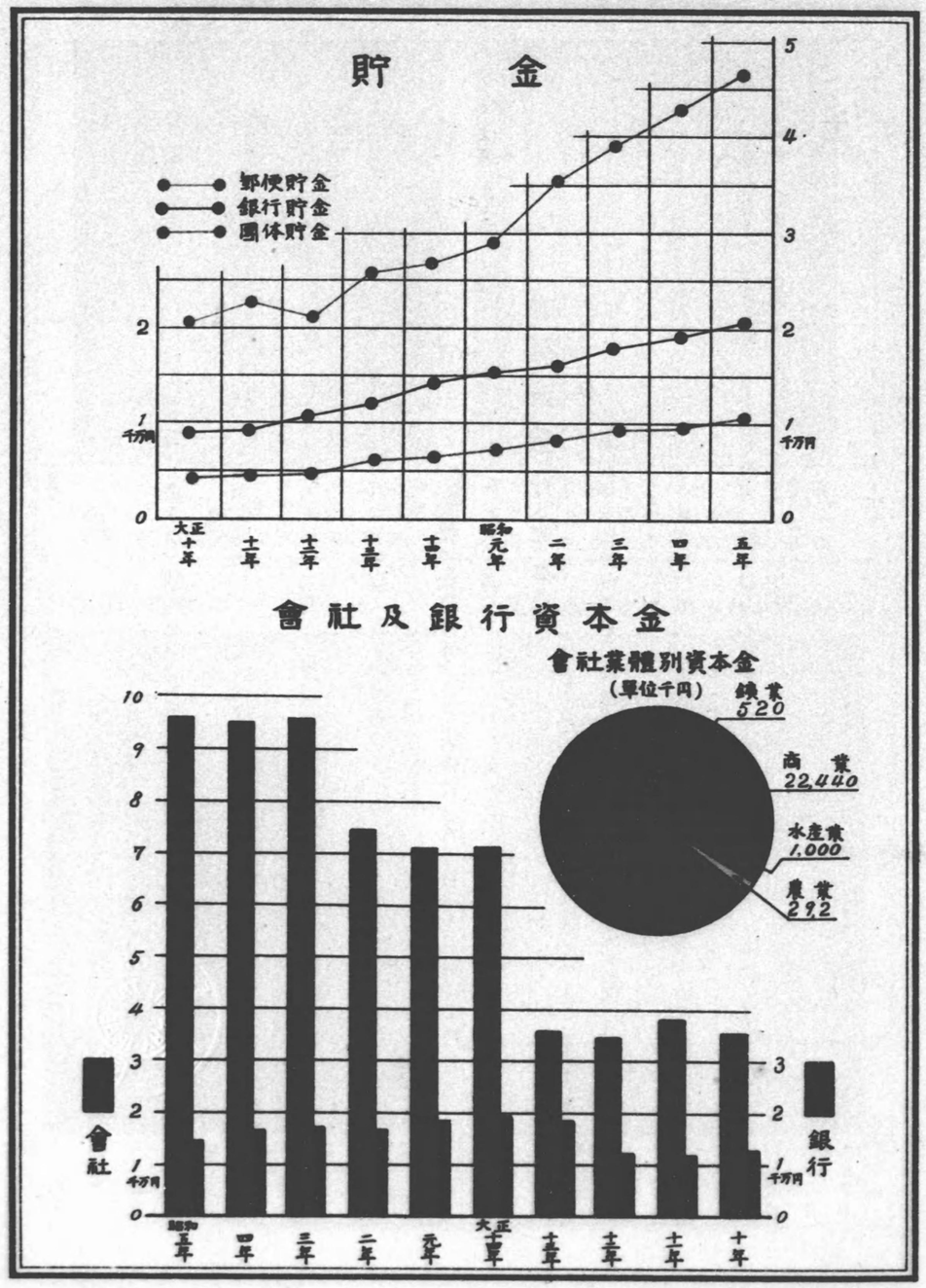
昭和五年



工　　産

工産は農産に亞ぎその昭和五年の生産額六千四百八十五萬餘圓にして、生産總額一億六千八百七十三萬餘圓の三八%に當り、內醬油は全國に冠たる野田、銚子の大工場を有し二千四百五十三萬餘圓に上り、その他は著しく下りて酒類の七百三十一萬餘圓、桶樽類の四百三十二萬餘圓、繊物の三百十萬餘圓等その主なるものなり。而して工産物價額は漸增の傾向を示せるも、昭和元年同二年に於て毛繊物工場の休業に伴ひ減額を見、更に最近諸物價低落の爲、昭和五年に於ては十年前即ち大正十年に比し稍減少を見たり。

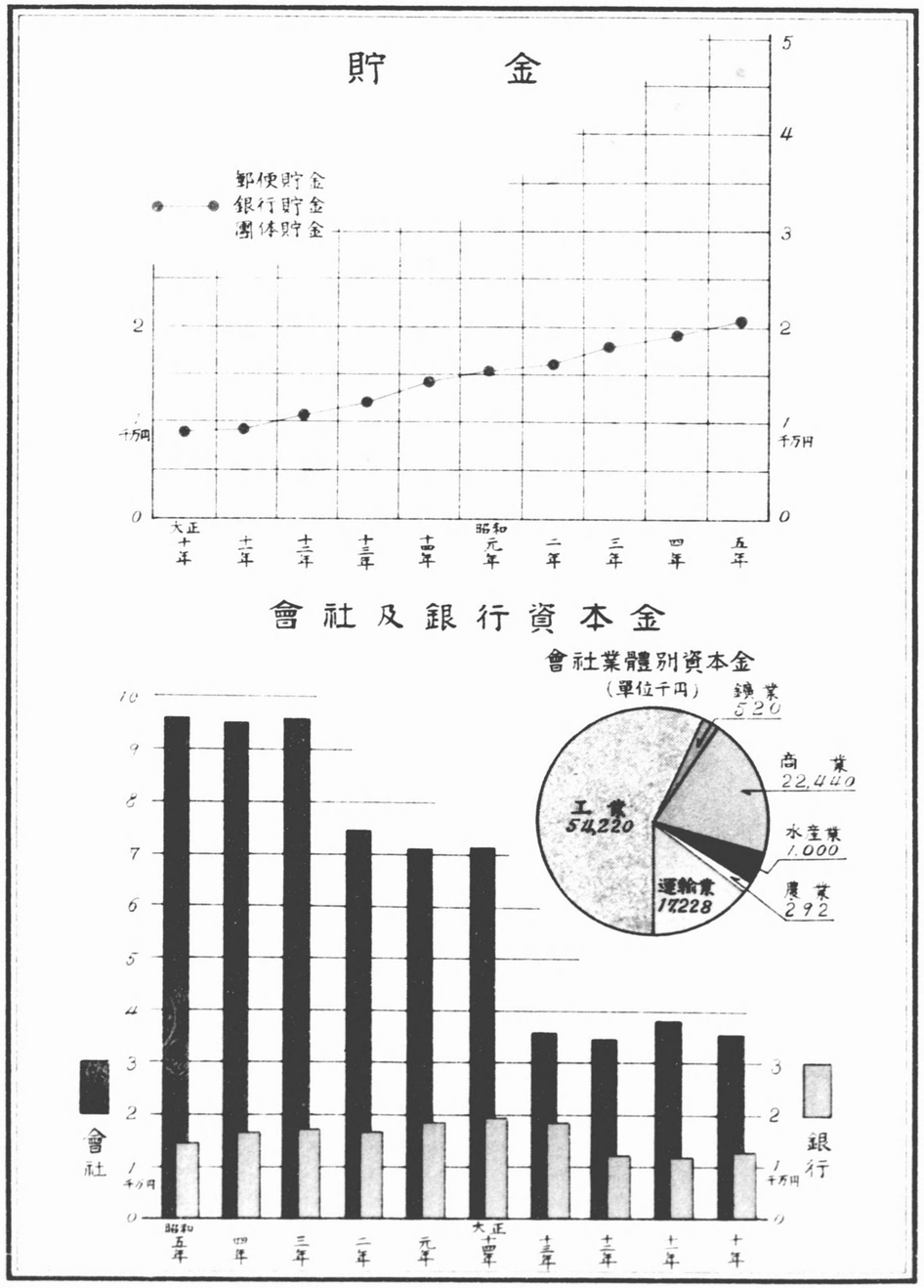
貯金及會社資本金



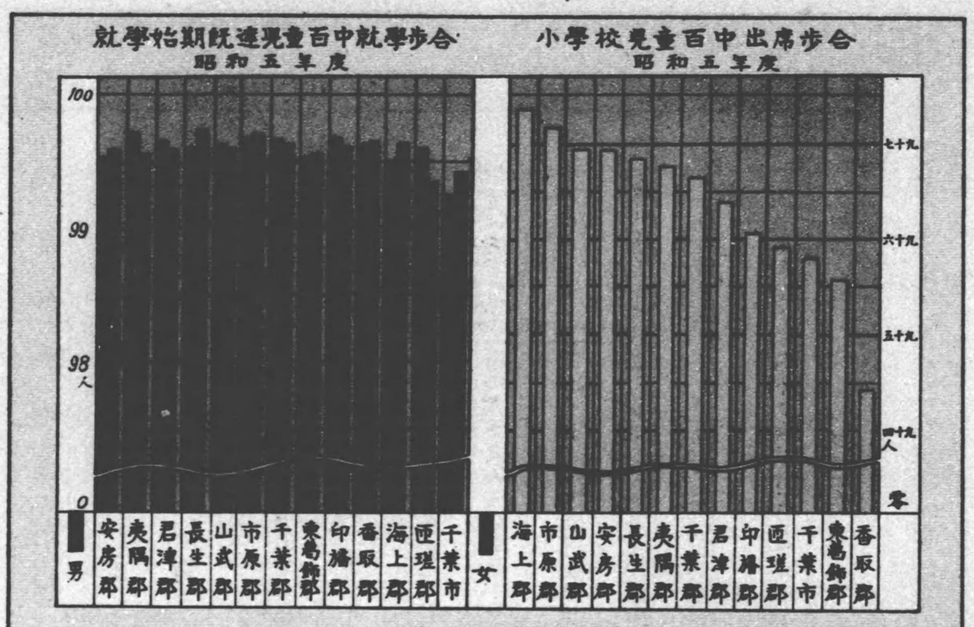
工　　産

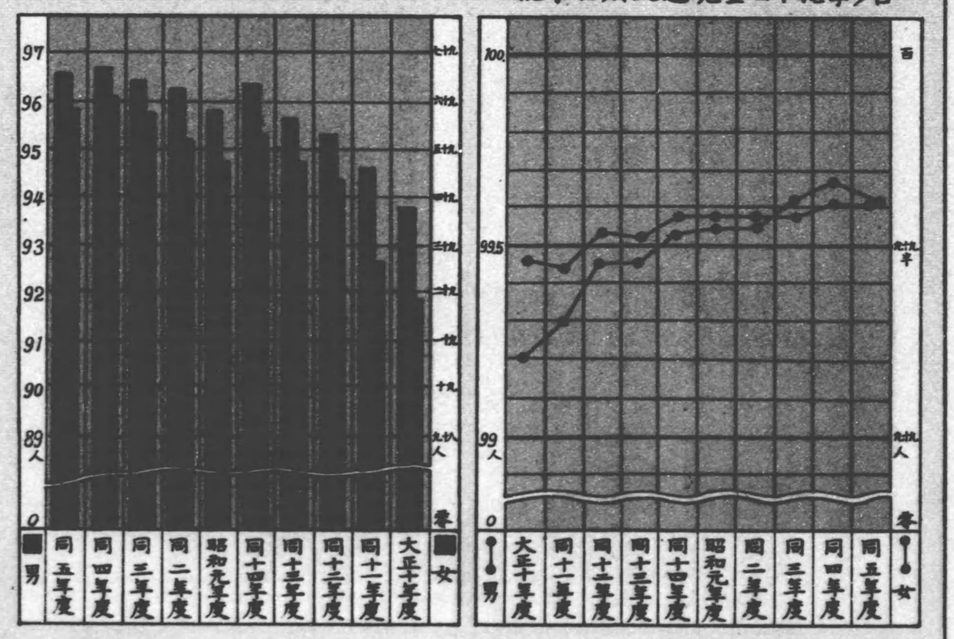
工産は農産に亞ぎその昭和五年の生産額六千四百八十五萬餘圓にして、生産總額一億六千八百七十三萬餘圓の三八%に當り、內醬油は全國に冠たる野田、銚子の大工場を有し、千四百五十三萬餘圓に上り、その他は著しく下りて酒類の七百三十一萬餘圓、桶樽類の四百三十二萬餘圓、織物の三百十萬餘圓等その主なるものなり。而して工産物價額は漸增の傾向を示せるも、昭和元年同二年に於て毛織物工場の休業に伴ひ減額を見、更に最近諸物價低落の爲、昭和五年に於ては十年前即ち大正十年に比し十箱減少を見たり。

貯金及會社資本金



教育





貯金

貯金は漸次增加の傾向を示しつゝありて、昭和五年(度)末現在に於ける郵便貯金預入人員六十四萬四千百四十九人、其の金額四千六百八十五萬餘圓にして、人口百に付預入人員四十四人、預入者一人に付貯金七十三圓に當り、銀行貯金にありては預入人員十二萬三千百六十人、其の金額二千七十七萬餘圓にして、人口百に付預入人員八人、預入者一人に付百六十九圓に當り、團體貯蓄に在りては其の團體數四千二百五十一、團體員數二十一萬五千五百二十六人、貯蓄高千六萬餘圓にして團體員一人に付四十七圓に當れり。

會社及銀行資本金

會社は年々其の數を增し、昭和五年末に於けるその數六百二を算し、資本金九千五百七十萬餘圓に上り、內工業最も多く總額の五七%を占め、商業の二三%、運輸業の一八%等其の主なるものなり。

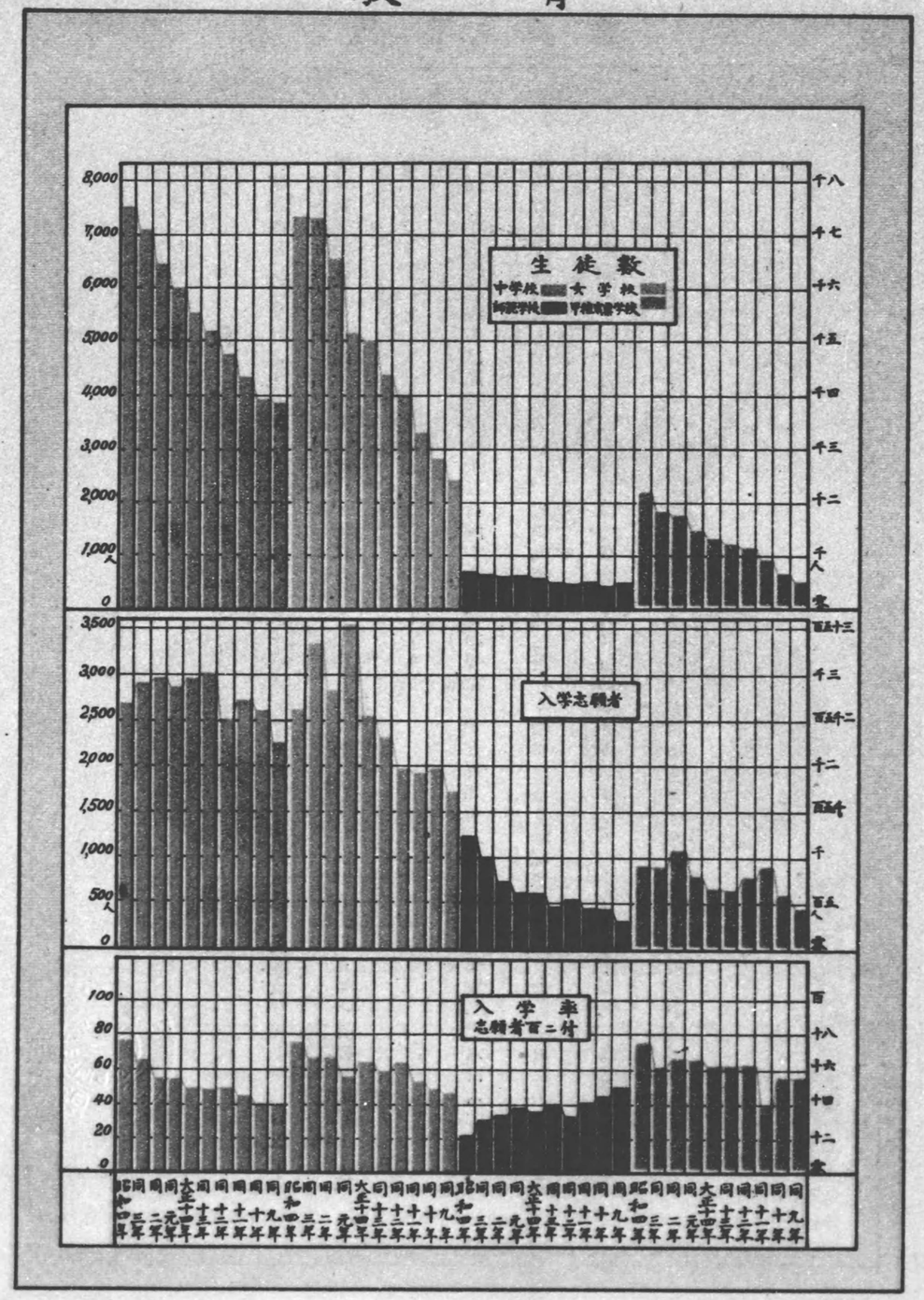
銀行資本金は最近銀行の合併整理等の結果幾分の減少を見たるも昭和五年末に於ける總額千四百六十二萬圓なりとす。

教育

昭和五年度内三月一日に於ける學齢兒童總數は二十六萬七千七百七十八人、内男兒十三萬五千四十四人、女兒十三萬二千七百三十四人にして、其の就學歩合は男女兒共に九十九人六分に當り、之を郡市別に比較すれば長生、山武兩郡の九十九人七分を第一位とし、千葉郡の九十九人六分八厘之に次ぎ、以下の各郡はそれ以下にありて千葉市の九十九人四分を最下位とす。

小學校兒童の出席歩合は、男兒九十六人六分、女兒九十五人九分、平均九十六人三分にして、大正十年度以後漸次良好の成績を擧げつゝあるも、前年度に比すれば男兒に於て八厘、女兒に於て一分九厘、平均に於て一分三厘を減じたり、而して之を郡市別に示せば海上郡の九十七人三分を第一位とし、市原郡の九十七人二分之に亞ぎ、以下何れも九十七人未滿にして香取郡の九十四人四分を最下位とす。

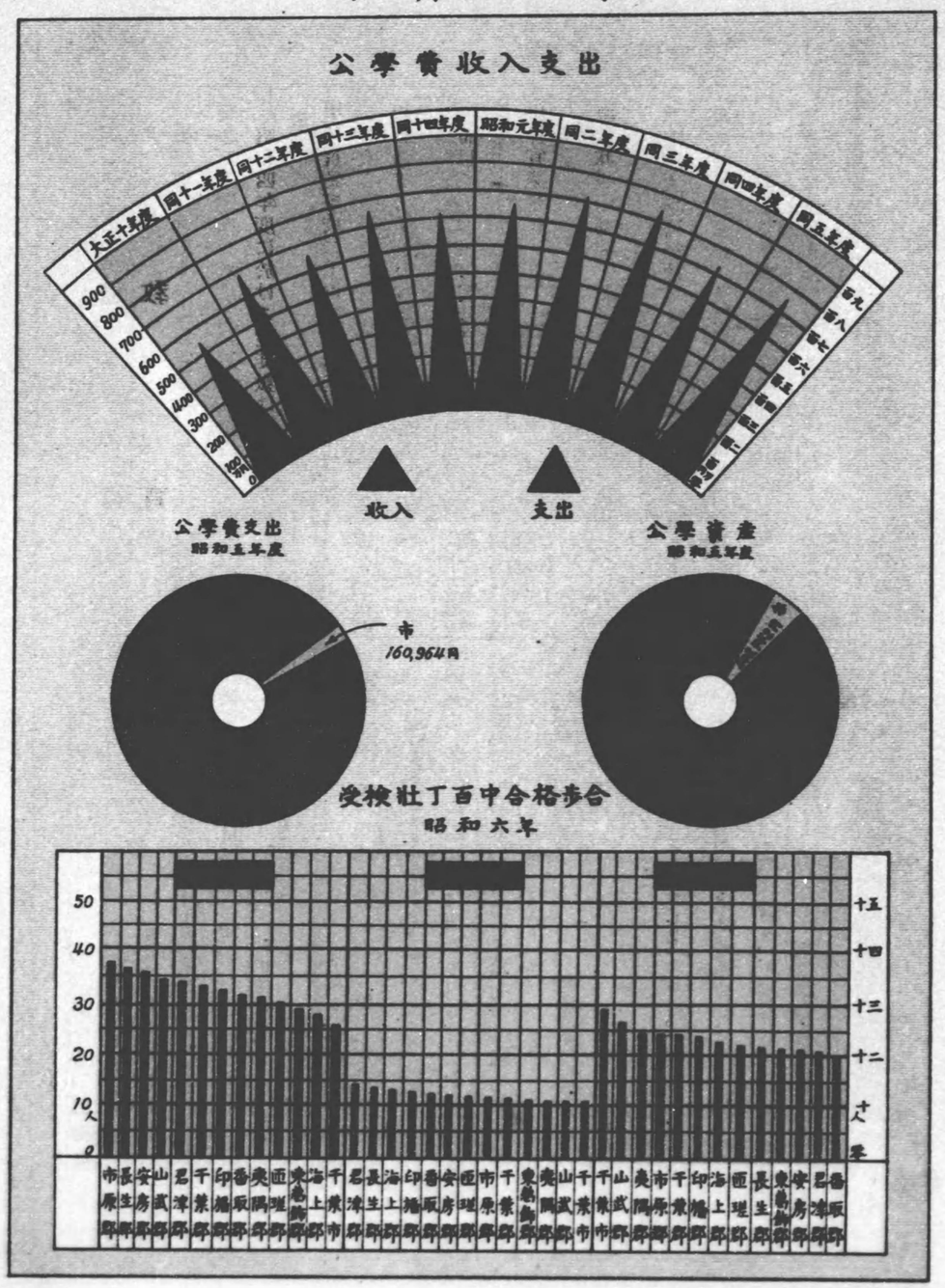
教育



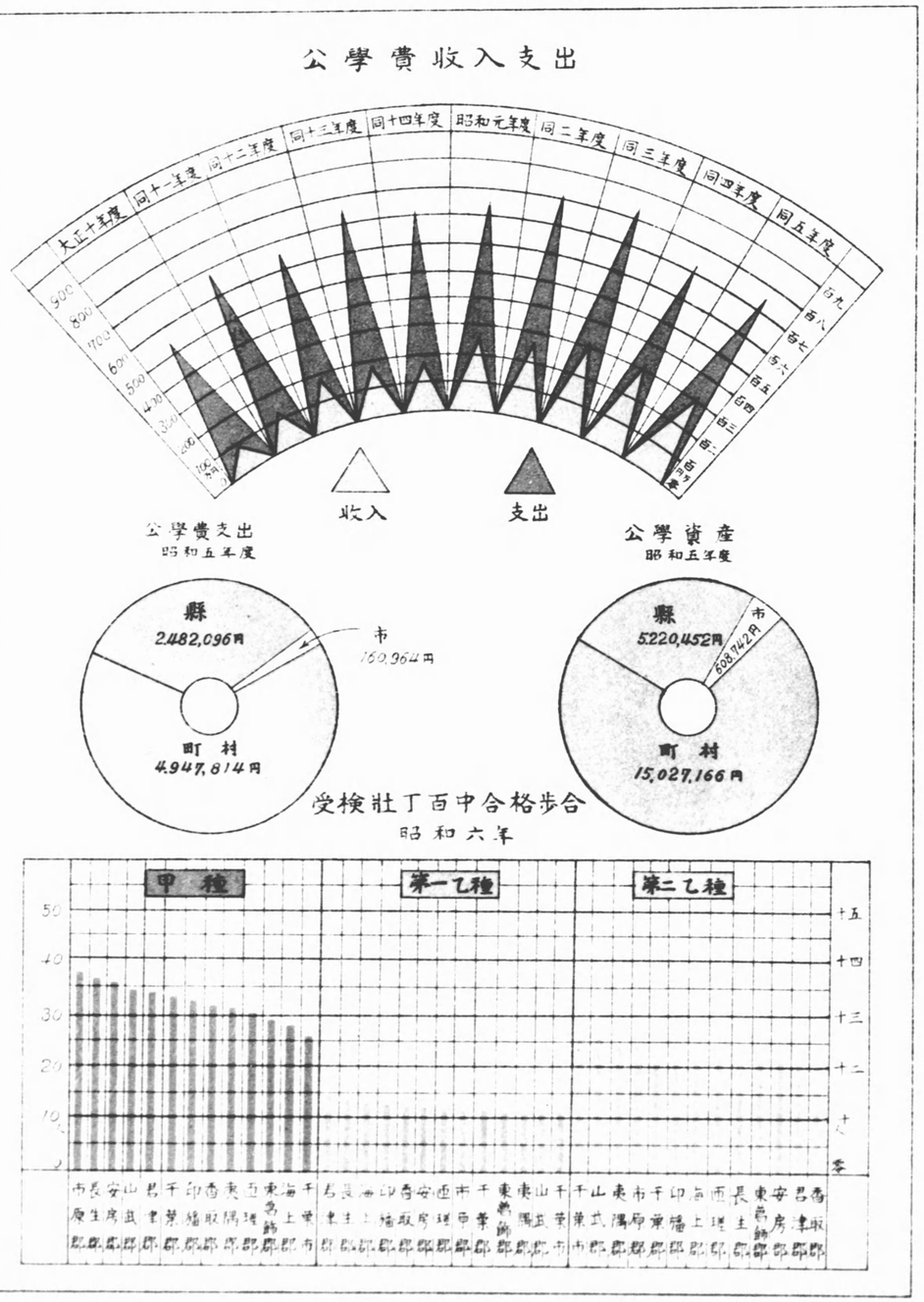
教育

昭和四年度に於ける生徒數は、師範學校六百八十八人、中學校七千五百五人、高等女學校七千三百五十人甲種實業學校二千百四十六人に及び、何れも年々增加しつゝありて十年前即ち大正九年の各校を通じ七千二百六人なりしに比し實に一萬四百八十三人を增したり。

而して入學志願者は師範學校千二百四十八人、中學校二千五百九十六人、高等女學校二千六百六十二人、甲種實業學校八百七十二人にして、大正九年に比し著しく增加せるも師範學校を除き他の學校に於ては最近漸次減少の傾向を示せり。又入學率は志願者百人に付師範學校二十二人、中學校七十五人、高等女學校七十六人、甲種實業學校七十三人の割合にして、獨り師範學校は年と共に低下し其の他は何れも漸次高率を示せり。



公學費收入支出



昭和六年 受検壯丁百中合格歩合

教育

昭和四年度に於ける生徒數は、師範學校六百八十八人、中學校七千五百五人、高等女學校七千三百五十八人、甲種實業學校二千百四十六人に及び、何れも年々增加しつゝありて十年前即ち大正九年の各校を通じ七千二百六人なりしに比し實に一萬四百八十三人を增したり。

而して入學志願者は師範學校千二百四十八人、中學校二千五百九十六人、高等女學校二千六百六十二人、甲種實業學校八百七十二人にして、大正九年に比し著しく增加せるも師範學校を除き他の學校に於ては最近漸次減少の傾向を示せり。又入學率は志願者百人に付師範學校二十二人、中學校七十五人、高等女學校七十六人、甲種實業學校七十三人の割合にして、獨り師範學校は年々其に低下し其の他は何れも漸次高率を示せり

教　育

公學費は大正十年度以降漸次增加を示し、昭和三年度に於ては其の額八百二十九萬七千餘圓に上りたるも昭和五年度に於ては七百五十九萬餘圓に下り、內縣經濟に屬するもの二百四十八萬二千餘圓（三二%）、市經濟に屬するもの十六萬餘圓（二%）、町村經濟に屬するもの四百九十四萬七千餘圓（六六%）なりとす。

公學費に屬する收入は大正十年度以降漸次增加し、昭和五年度に於ける總額三百十萬三千餘圓にして、內縣經濟に屬するもの七十三萬七千餘圓（二四%）、市經濟に屬するもの五萬四千餘圓、（二%）　町村經濟に屬するもの二百三十一萬餘圓（七四%）なり。

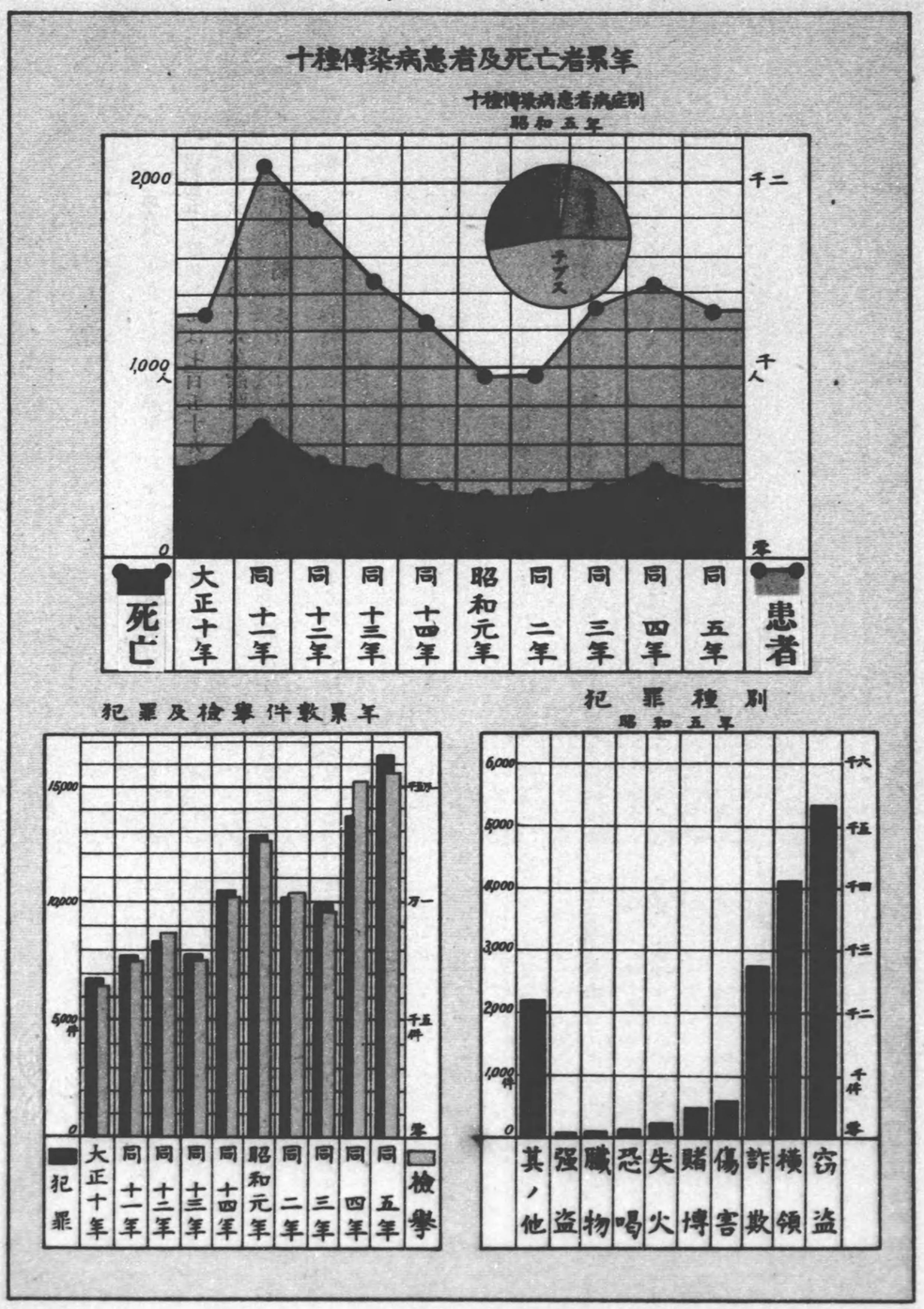
公學資產は昭和五年度に於ける總額二千八十五萬六千餘圓にして、內縣經營に係るもの五百二十二萬餘圓（二五%）、市經營に係るもの六十萬八千餘圓（三%）、　町村經營に係るもの千五百二萬七千餘圓（七二%）なり。

兵　事

昭和六年に於ける檢丁總員は一萬五千百九十六人にして、東葛飾郡の二千百四十六人を第一位とし、安房郡の千八百五十一人、香取郡の千五百八十四人等之に次ぎ、千葉市の二百六十九人最も少し。

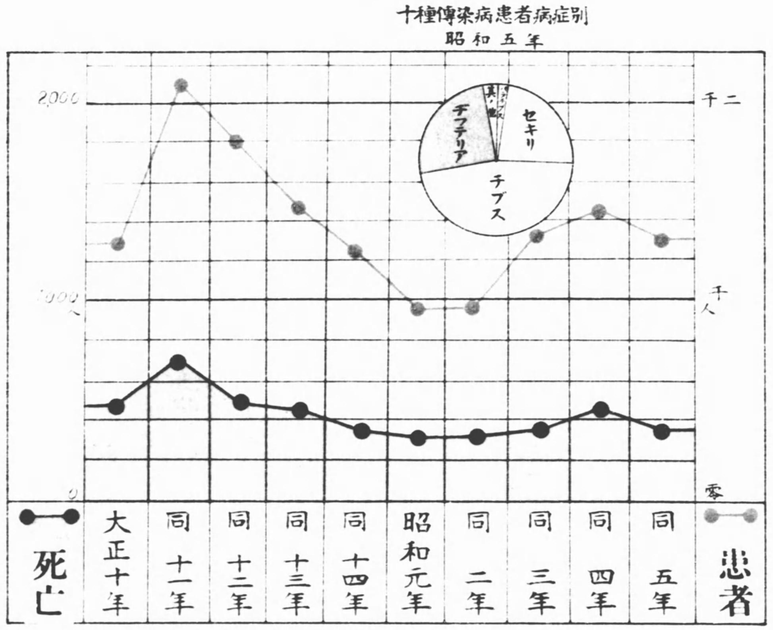
受檢壯丁百中合格歩合は甲種三二・九、第一乙種一二・四、第二乙種二二・六に當り、甲種合格歩合を郡市別に比較すれば市原郡三六・八を第一位とし、長生郡の三六・一、安房郡の三五・二等之に次ぎ千葉市の二六・〇を最少とせり。

衛生　警察

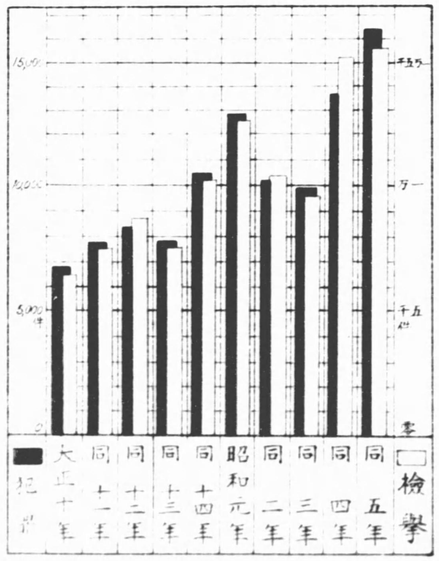


警察　衛生

十種傳染病患者及死亡者累年

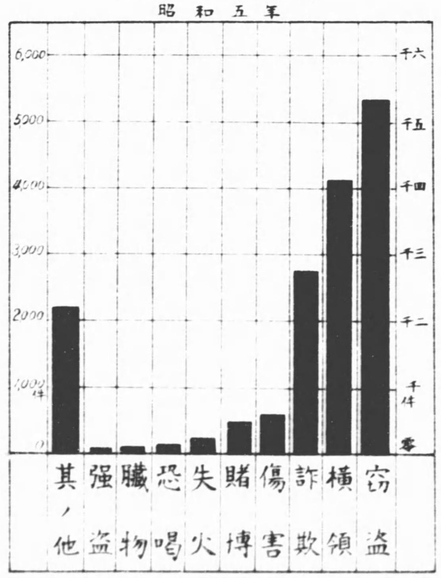


犯罪及檢擧件數累年



犯罪種別

昭和五年



教育

公學費は大正十年度以降漸次增加を示し、昭和五年度に於ては其の額八百二十九萬七千餘圓に上りかるも昭和五年度に於ては七百五十九萬餘圓にすぎず、內縣經濟に屬するもの二百四十八萬二千餘圓（三二%）、市經濟に屬するもの十六萬餘圓（二%）、町村經濟に屬するもの四百九十四萬七千餘圓（六六%）となりとす。

公學費に屬する收入は大正十年度以降漸次增加し、昭和五年度に於ける總額は百十萬三千餘圓にして、內縣經濟に屬するもの七十三萬七千餘圓（三四%）、市經濟に屬するもの二百三十一萬餘圓（七四%）なり。

公學資產は昭和五年度に於ける總額二千八十五萬六千餘圓にして、內縣經營に係るもの五百二十二萬餘圓（二五%）、市經營に係るもの六十萬八千餘圓（三%）、町村經營に係るもの千五百二萬七千餘圓（七二%）なり。

兵事

昭和六年に於ける檢丁總員は一萬五千百九十六人にして、事務管轄の二千百四十六人を第一位とし、安房郡の千八百五十一人、香取郡の千五百八十四人等之に次ぎ、千葉市の二百六十九人最も少し

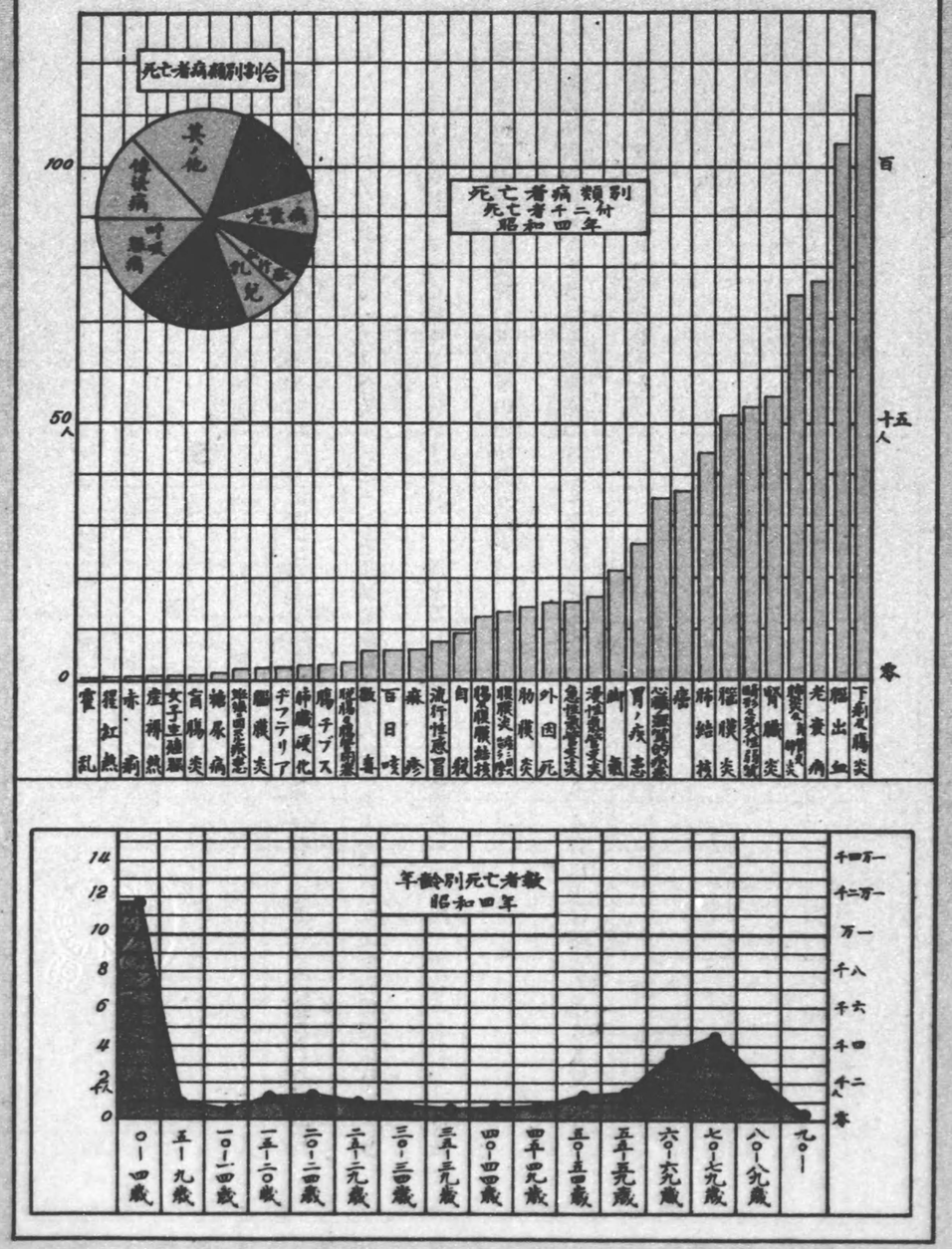
受檢壯丁百中合格步合は甲種三二・九、第二乙種一二・四、第二乙種一二・六に當り、甲種合格步合を郡市別に比較すれば市原郡三六・八を第一位とし、長生郡の三六・一、安房郡の三五・二等之に次ぎ千葉市の二六・を最少とせり。

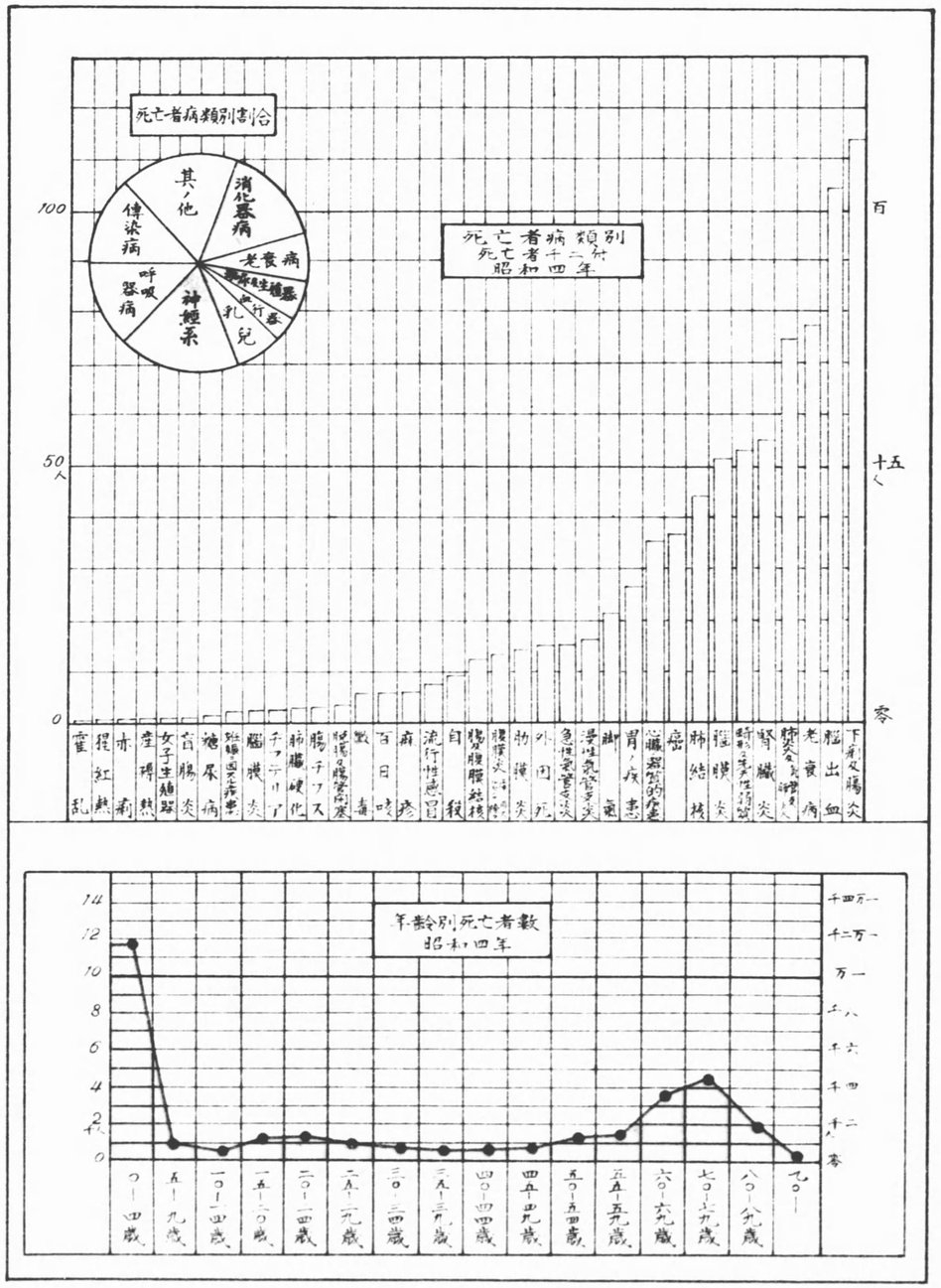
警察

犯罪數は年々概して增加の傾向を示し、昭和五年は十年前即ち大正十年に比し倍加して一萬六千二百六十四件に上り、內窃盜の五千三百五十六最も多く、以下橫領、詐欺、傷害、賭博、失火、恐喝等の順序なり。

衛生（十種傳染病）

昭和五年に於ける十種傳染病患者總數は千三百七人にして、內死亡三百六十三人即ち二八%に及べり、而してこの患者を病類別に見るときは腸チブス最も多く六〇九人（四七%）を占め、赤痢の三三八（二六%）、ヂフテリア二九八人（二三%）順次之に亞き以下は著しく下り、コレラ、痘瘡、發疹チブス、ペストは發生を見ず。





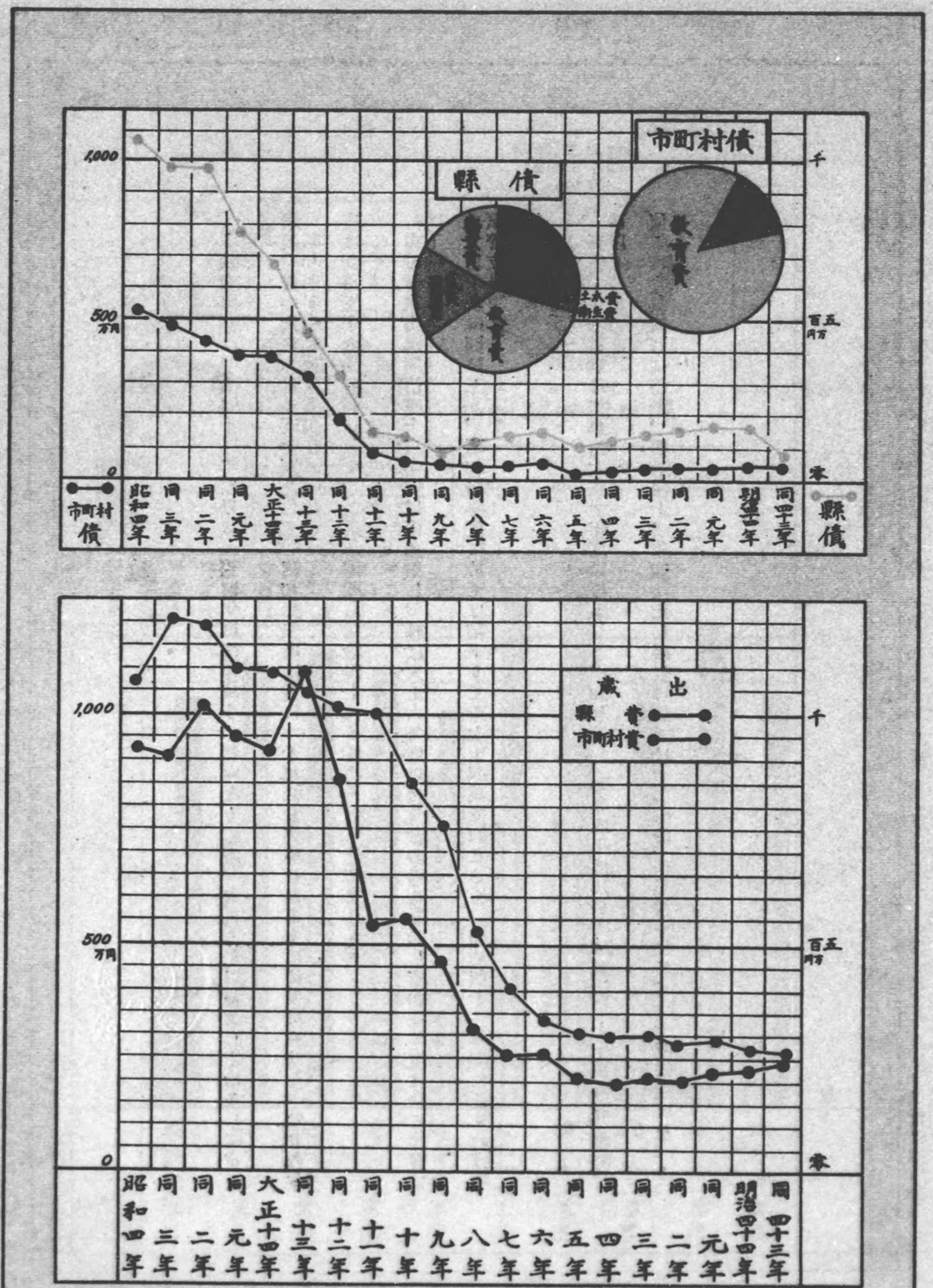
警　　察

犯罪數は年々概して增加の傾向を示し、昭和五年は十年前即ち大正十年に比し倍加して一萬六千一百六十四件に上り、內窃盜の五千三百五十六最も多く、以下橫領、詐欺、傷害、賭博、失火、恐喝等の順序なり。

衛　　生

（十種傳染病）

昭和五年に於ける十種傳染病患者總數は千三百七人にして、內死亡三百六十三人即ち二八%に及べり、而してこの患者を病類別に見るときは腸チブス最も多く六〇九人（四七%）を占め、赤痢の三三八（二六%）、ヂフテリア二九八人（二三%）順次之に亞き以下は著しく下り、コレラ、痲疹、發疹チブス、ペストは發生を見ず。

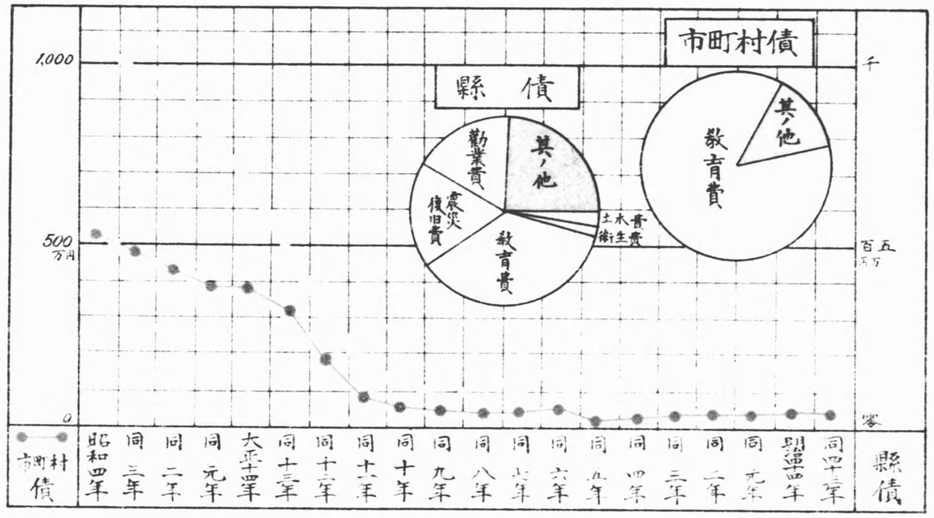


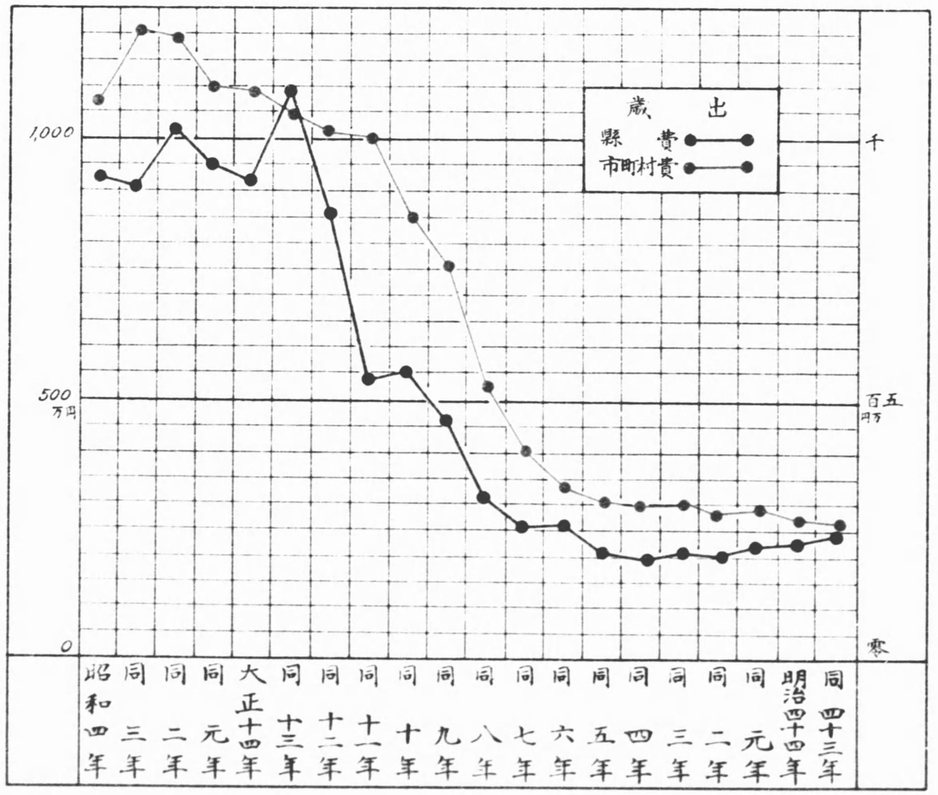
衛　生

昭和四年中に於ける現在人の死亡は三萬二千二百九十二人にして人口千に付二一・二三人に當り、全國平均の二〇・〇四人に比し一・一九人多く其の多きこと全國道府縣中第八位にあり、而して之を病類別に見るときは下痢及腸炎による死亡最も多く死亡千に付一一四を算し、腦出血及腦軟化の一〇四、老衰の七七、肺炎及氣管支肺炎七五、腎臟炎の五五等の順序なりとす。

更に年齡別に見るときは五歳未滿の者最も多く全死亡の三七%に當り、それ以上は著しく下るも更に五〇歳以上に及び漸次其の數を增せり。

財　政





衛　生

昭和四年中に於ける現在人の死亡は三萬二千二百九十二人にして人口千に付二二・二三人に當り、全國平均の二〇・〇四人に比し二・一九人多く其の多きこと全國道府縣中第八位にあり、而して之を病類別に見るときは下痢及腸炎による死亡最も多く死亡千に付一・四を算し、腦出血及腦軟化の一・〇四、老衰の七七、肺炎及氣管支肺炎七五、腎臟炎の五五等の順序なりとす。

更に年齡別に見るときは五歳未滿の者最も多く全死亡の三七%に當り、それ以上は著しく下るも更に五〇歳以上に及び漸次其の數を增せり。

財政

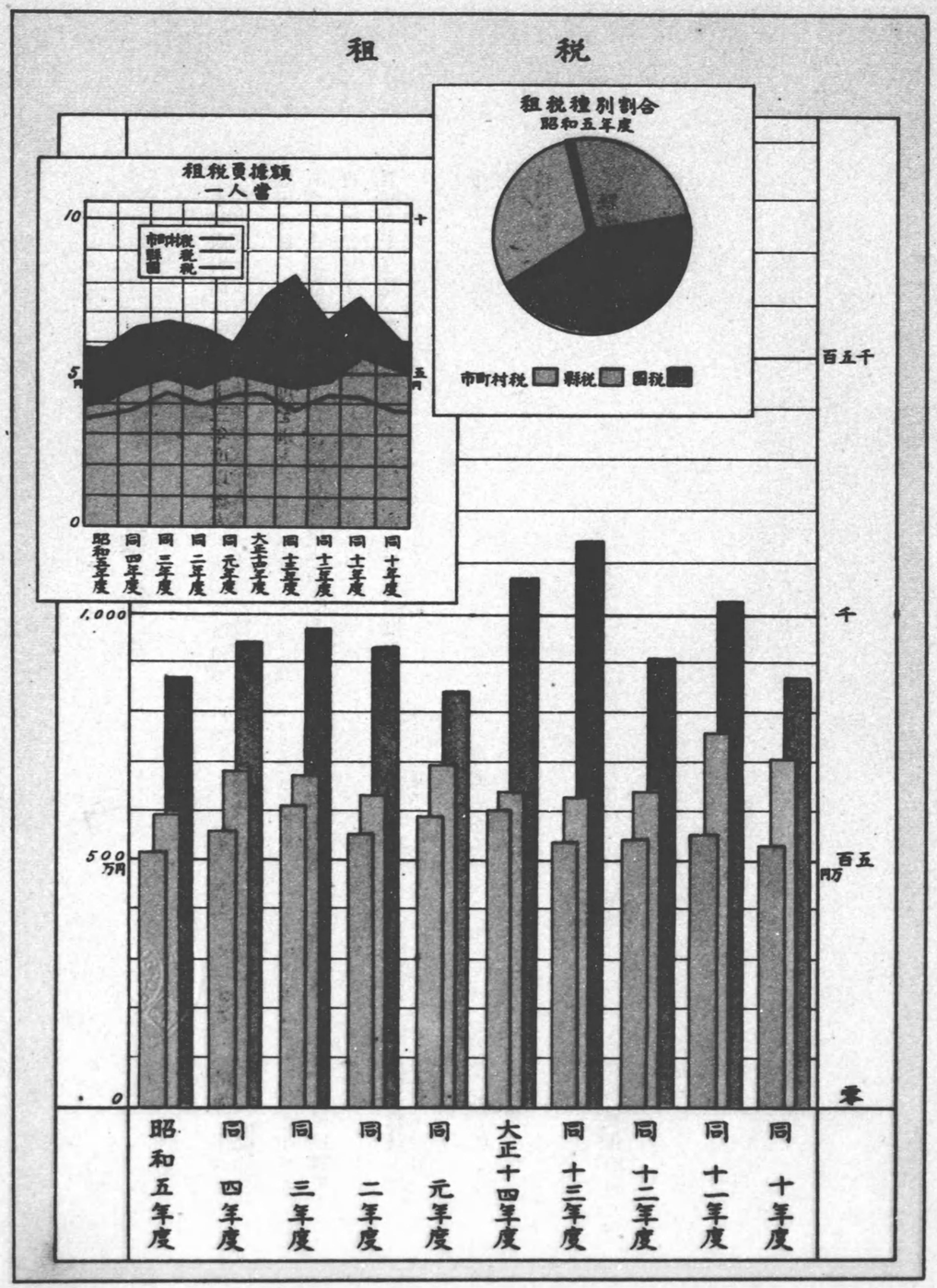
本縣歳出額は明治四十三年度以後大正四年度迄稍減少の傾向なりしも、大正五年以後著しく増加し關東大震災直後の大正十三年度を別として、昭和二年度は實に一千萬圓を突破したるも以後幾分減少し、昭和四年度は九百三十六萬餘圓にして、二十年前即ち明治四十三年度の三倍八分に達せり。

市町村歳出は明治四十三年度以後漸増し、殊に大正六年度以後急激の増加を示し昭和三年度に於ては實に千二百十萬餘圓に上り、昭和四年度に於ては稍下りて千七十四萬餘圓なるも、明治四十三年度に比すれば四倍に當れり。

縣債、市町村債は何れも大正十年度以後著しき増加を示し、昭和四年度に於ては縣債千七十萬餘圓、市町村債五百九萬餘圓に達し、明治四十三年度に比し縣債に於ては十二倍餘、市町村債に於ては十四倍餘に及べり。

財政

租税



財政（租稅）

昭和五年度に於ける租稅總額千九百六十九萬餘圓にして、內國稅は八百五十七萬餘圓（四三％）、縣稅は五百二十五萬餘圓（二七％）、市町村稅は五百八十七萬餘圓（三〇％）なり、而して之が人口一人當を示せば國稅五圓八十三錢、縣稅三圓五十七錢、市町村稅三圓九十九錢にして、總額に於ては十三圓三十九錢に當れり。

昭和七年六月二十三日印刷
昭和七年六月二十五日發行

千葉縣

千葉市外都村貝塚一九二番地

印刷者　秋保謹四郎

千葉市外都村貝塚一九二番地

印刷所　千葉刑務所

447